

大妻女子大学 文学部英文学科 4年 岸 絵理奈

日時: 3月23日(土) 10:00-15:00

場所:大妻女子大学 千代田キャンパス

●大学校舎 B1F アトリウムほか 入場無料 雨天決行

主催:大妻女子大学

後援:千代田区、大妻コタカ記念会、大妻中学高等学校 千代田区内協力大学:共立女子大学、城西大学、 上智大学、専修大学、東京家政学院大学、二松学舎大学 日本歯科大学、日本大学、法政大学、明治大学

日本圏科大学、日本大学、法政大学、明治大学 協賛:千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム

大妻さくらフェスティバル 2019

アトリウムステージプログラム

会場:大学校舎地下1階 アトリウム

	時間	プログラム	団体					
10:00	10:00~10:50	投げ合い・素囃子 ビッグ・バンド演奏	九段小学校 九段囃子の会 九段小学校 九段 Planets					
	10:50~10:55	理事長挨拶	大妻学院理事長 伊藤 正直					
M	10:55~11:00	来賓挨拶	千代田区長 石川 雅己					
11:00	舞台撤収・設営							
	11:10~11:30	コーラス	大妻中学高等学校 コーラス部 (高校)					
	11:30~11:50	日本舞踊	大妻中学高等学校 日本舞踊部					
12:00	11:50~12:10	競技ダンス	法政大学・大妻女子大学 舞踏研究部					
12:00	12:10~13:00	休	憩					
M	12:20~12:50	千代田学事業報告	ポスターセッション					
13:00	13:00~13:20	和太鼓演奏	駐日英国大使館太鼓会 どん BRI					
	舞台撤収・設営							
	13:30~13:50	チ <mark>アリーディング演技</mark>	大妻女子大学オールチアリーディング・カンパニー LYNX					
14:00	13:50~14:10	アカペラ	二松学舎大学 アカペラサークル Voice of Nation					
4	14:10~14:30	フラダンス	大妻女子大学OG Mauhana Hula Studio					
	14:30~14:50	バトントワリング演技	大妻中学高等学校 バトントワリング部					
M	14:50~15:00	実行委員長 挨拶	大妻さくらフェスティバル実行委員長 井上 美沙子					
15:00		閉	会					

平成 30 年度 地域連携プロジェクト報告会

会場:大学校舎地下1階 ラウンジりょうま

	時間	プロジェクト	代表者	所属	
10:00	10:00~10:20	神保町の出版と書店を元気にするプロジェクト	深水 浩司	教職総合支援 センター	
	10:20~10:40	からきだ匠(たくみ)カフェ ~地域がつながる場所~	八城 薫	人間関係学部	
11:00	10:40~11:00	坂の上の街を囲碁で盛り上げる	川之上 豊	家政学部	
11.00	11:00~11:20	どろん子大運動会と寺子屋活動	炭谷 晃男	社会情報学部	
	11:20~11:40	三番町アダプトフラワーロードの会と の地域美化活動	石井 雅幸	家政学部	
12:00	11:40~12:00	里親・ファミリーホームの子ども支援 プロジェクト	山本真知子	人間関係学部	
	12:00~12:20	千代田&多摩地域 子供自然体験教育 プロジェクト	甲野 毅	家政学部	
13:00	12:20~12:40	能登の里海を守る:伝統漁と地域の活性化プロジェクト	細谷 夏実	社会情報学部	
	12:40~13:00	親子の居場所づくりに向けた「大泉こども食堂」プロジェクト	加藤 悦雄	家政学部	
	13:00~13:20	誰もが子どもを見守り隊プロジェクト ー子どもも大人も誰かが不自由だと思うこと を知るために、私たちの「伝える」取組みー	藏野ともみ	人間関係学部	
14:00	13:20~13:40	地域の子どもたちが体 <mark>を動か</mark> して仲間 と遊べるロボット中心の遊び環境づく り支援	松田 晃一	社会情報学部	
	13:40~14:00	唐木田発: <mark>学生と地域でコラボする体</mark> 験型防災講座	堀 洋元	人間関係学部	
	14:00~14:20	多摩における子育て家族の居住・住み 替え支援プロジェクト	松本 暢子	社会情報学部	
	14:20~14:40	大学近隣店舗と学生とのコラボレーションによる「健康×ボランティア」 プロジェクト	高波 嘉一	家政学部	
15:00	14:40~15:00	障害者雇用企業との連携によるTボール大会の開催	小川 浩	人間関係学部	
	15:00~15:20	むささび食堂:食事で心の共生を	田中直子	家政学部	

法政大学

明治大学

明治大学

巻頭あいさつ 2

千代田区長 石川 雅己

大妻学院 理事長/大妻女子大学 学長

伊藤 正直

一般財団法人大妻コタカ記念会の会長

井上小百合

大妻さくらフェスティバル実行委員長/ 大妻女子大学地域連携推進センター所長 井上美沙子

「千代田のさくらまつり」に寄せて 5

共立女子大学/共立女子短期大学

学長 川久保 清 城西大学 学長 白幡 晶 上智大学 学長 **燁道** 佳明 専修大学 学長 佐々木重人 廣江 東京家政学院大学 学長 彭 二松学舎大学 学長 菅原 淳子 日本歯科大学 生命歯学部長 沼部 車車 日本大学 学長 大塚吉兵衛

千代田学事業報告 11

総長

学長

教授

小林

正美

田中 優子

土屋恵一郎

大妻女子大学 教授 川口美喜子 共立女子大学 教授 本澤 淳子 岸田 泰子 教授 上智大学 川西 教授 諭 東京家政学院大学 教授 上村 協子 二松学舎大学 教授 谷島 貫太 日本大学 教授 田中ゆかり 日本歯科大学東京短期大学 教授 大島 克郎 法政大学 教授 福井 恒明 教授 高田 雅之

地域連携プロジェクト報告

35

52

教職総合支援センター 常勤特任講師 深水 浩司 人間関係学部 准教授 八城 董 家政学部 教授 川之 ト 豊 炭谷 晃男 社会情報学部 教授 石井 雅幸 家政学部 教授 人間関係学部 専任講師 山本真知子 家政学部 准教授 甲野 毅 社会情報学部 教授 細谷 夏実 家政学部 悦雄 准教授 加藤 藏野ともみ 人間関係学部 教授 社会情報学部 教授 松田 晃一 人間関係学部 准教授 堀 洋元 社会情報学部 教授 松本 暢子 家政学部 教授 高波 嘉一 人間関係学部 教授 기네티 浩 家政学部 教授 田中 直子

イベント出演団体紹介

千代田区立九段小学校 九段囃子の会 千代田区立九段小学校 九段 Planets 大妻中学高等学校 コーラス部 (高校) 大妻中学高等学校 日本舞踊部 大妻中学高等学校 バトントワリング部 法政大学・大妻女子大学 舞踏研究部 大妻女子大学 オールチアリーディング・カンパニー LYNX どん BRI 駐日英国大使館太鼓会 二松学舎大学 アカペラサークル Voice of Nation 大妻女子大学 OG Mauhana Hula Studio

大妻さくらフェスティバル俳句大賞 56

理事長・学長賞受賞作品 優秀賞受賞作品

おすすめイベント

除伐材から作った炭でクラフト(消臭袋)作り体験

家政学部ライフデザイン学科環境教育学ゼミです。

昨年の夏休み、メンバーで訪れた妙高高原のすばらしさを、みな さんも感じてみませんか?

私たちは天然林で除伐をし、その木材から炭を作りました。ここでは、その炭を活用したクラフト作り(消臭袋作り)体験が出来ます。 作り方は簡単。気に入った炭をおしゃれな袋に入れて、しばるだけ。 ぜひお越しください。お待ちしております。

時間: 12:30~13:30

場所:大学校舎地下1階 講堂控室

※参加費無料(材料が無くなり次第終了)



癒しのクラフト作り&三陸復興支援のワークショップ

コタカ先生の故郷である広島県世羅町のドライフラワーやヒノキなどの間伐材、桜の花びらや 食物の色素で染色した布や毛糸を用い、香りの良いコサージュやミニブーケを作ります。桜型の 石鹸カービングも作れます(中学生以上)。

また、三陸の和ぐるみを用いたカスタネットなども作れます。ぜひ、お立ち寄りください。

時間: 10:00~15:00まで(作品により開始時間が異なります)

場所:大学校舎地下1階 アトリウム ※参加費無料(材料が無くなり次第終了)







写真は作品例

御神輿展示

提灯に大きく"大妻女子大"とかかれた通称「大妻女子大神輿」を展示します!

この御神輿は、千代田区の靖國神社で毎年行われている「みたままつり」で本学学生が担いでいるものです。今年度は、近年まれに見る大人数で100人をこえる学生が担ぎ手として参加し、同神社参道を練り歩きました。

みたままつりの様子も上映していますので、ぜひ ご覧ください。

場所:本館 Ε 棟 1 階 エントランスホール





千代田のさくらまつり 「大妻さくらフェスティバル 2019」

 千代田区長

 石川 雅己

千代田のさくら、いちばん美しく心も躍る季節の到来となりました。この時期に合わせ「大妻さくらフェスティバル 2019」が盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

千代田区は、区内の大学等に、千代田区に関する様々な調査・研究を行っていただく「千代田学」の事業を進め、本年で16年目になります。研究テーマや調査方法に各大学の個性が表れるのも千代田学の特徴であり、区政や地域の発展に寄与するものとして活用させていただいております。

大妻女子大学が千代田区の花である「さくら」に着目し、千代田学の発表も含め、素晴らしいフェスティバルを企画・開催していただいていることに、改めて深く感謝申し上げます。

本フェスティバルは、「千代田学」の研究成果の発表、「地域連携プロジェクト」事業の発表、 親子でも楽しめるワークショップ、小学生から大学生までの児童・生徒・学生によるアトラクションなどが開催され、多くの皆様の心に残る楽しい催しになるものと確信しております。

千代田区には、10万人を超える学生の皆様が学業に励んでおられる中、大妻女子大学では、地域のお祭りや教育、福祉、環境、防災など幅広い分野のボランティア活動にも積極的に参加され、地域の皆様とも絆を深めております。これからも、地域に愛される大学として、様々な分野に力を注いでいただくことをご期待申し上げます。

なお、本フェスティバルと連携して行われる「千代田のさくらまつり」は、毎年、100万人 以上が来訪する大きなイベントであり、さくらのライトアップで幻想的な雰囲気を醸し出すな ど、多くの皆様に千代田の「さくら」を満喫していただく工夫を重ねてまいる所存です。

結びに、開校以来、110年にわたり千代田区に本部を置き、地域の方々とともに歩まれてきた大妻女子大学が、今後も一層地域や他校との絆を深め発展されますことを心よりご祈念申し上げます。



「千代田のさくらまつり」と 「大妻さくらフェスティバル

大妻学院 理事長 大妻女子大学 学長 伊藤 正直

千鳥ヶ淵のさくら開花にあわせた「千代田のさくらまつり」が開催される時候となりました。本学院でも、この「千代田のさくらまつり」の一環として「大妻さくらフェスティバル」を毎年開催してきました。今年も、区内大学・専門学校の連携事業としての「千代田学」の研究・活動報告、大妻女子大学「地域連携プロジェクト」の報告、小学生から社会人までの参加による大妻アトリウムでの各種の発表会やイベント、さくらフェスティバル記念俳句の募集と「俳句大賞」の発表などを実施いたします。

千代田区は、東京の中心部を占め、皇居外濠のほぼ内側をその区域としています。国会議事堂やほとんどの官庁がある政治の中枢地域であるだけでなく、大手企業の本社、経団連などの経済組織が立地するオフィス街でもあり、さらには多くの大学や文化施設が集中する文教区域でもあります。こうした優れた都市環境のなかで、本学院も、新しい都市文化の担い手として、その一端を担うべく努力する所存です。

本学院は、2018年に創立 110周年を迎えました。これを記念して、2018年には、多くの事業を開催し、千代田区の皆様にも、そのいくつかの企画にご参加いただきました。創立者大妻コタカは、「自ら学ぶ」こと、「社会に貢献できる力を身につける」こと、「その力を広く世の中で発揮していく」ことが、「女性の自立」につながると考えていました。男女共同参画基本法や女性活躍推進法が制定・施行されるなかで、近年、女性の社会的活躍の機会は大きく広がってきました。こうした社会の新しい変化に、本学院も積極的に対応し、社会に貢献していきたいと考えています。

2018年には、近隣5大学による「千代田5大学コンソシアム」も発足しました。また、 千代田区内の企業や教育機関との協定も新たに締結しました。これを機にさらに地域文化の 発展に寄与できるよう微力を尽くす所存です。今後ともよろしくお願い申し上げます。



「大妻さくらフェスティバル」を祝して

 一般財団法人大妻コタカ記念会 会長

 井上 小百合

今年も「大妻さくらフェスティバル」が開催されますことをお慶び申し上げます。

千鳥ヶ淵、靖国神社など大妻の周辺には桜の名所が多く、毎年この時期になるとピンク色になった桜のつぼみに心弾む気持ちになってきます。卒業生にとっても千代田の桜の景色は、学生時代に思いを馳せる格別のものがありましょう。

大妻コタカ記念会は大妻女子大学、大妻高等学校、大妻多摩高等学校の卒業生および在学在校する大学生、高校生によって構成される一般財団法人です。大妻コタカの偉業を継承具現することを目的の一つに掲げ、同窓会事業はもとより、一般財団法人として広く公益に資する事業を積極的に進めており、特に文化講演会や生涯学習講習会は、会員だけではなく千代田区在住の皆様などにも多くご参加いただいております。

<mark>これからも地域の皆様に参加していただける企画を積極的</mark>に進めていきたいと思います。



大妻さくらフェスティバルと地域連携

大妻さくらフェスティバル実行委員長 大妻女子大学地域連携推進センター所長 井上 美沙子

「大妻さくらフェスティバル 2019」の開催にあたり、今年も近隣大学の皆さま、地域の諸団体の皆さまのご協力のもと、このフェスティバルを開催できますことに、心より感謝申し上げます。

本フェスティバルを担当しております地域連携推進センターは、山王祭などのお祭りや大学 周辺の道路に花を植える活動等、地元である三番町町会の皆さまのご支援のもと、千代田区 や近隣小学校・企業の皆さまと連携させていただき、地域に根ざした活動を続けております。 また、地域連携・貢献を目的としたプロジェクトを学内に公募し、学生が学内から学外に出て 活動し、広く地域の皆さまと関わって活動し学ぶ機会をサポートしております。

創立 110 周年に当たる 2018 年は、近隣団体の皆さまとコラボレーションする機会も増え、 今後ますます地域の活性化・発展に努力して参りたいと存じます。引き続き、皆さまのご支援 を賜りますよう祈念してご挨拶とさせていただきます。

「千代田のさくらまつり」 に寄せて

大妻女子大学と区内10大学は相互に連携・協力して、それぞれが有する知的資産を地域に還元することで千代田区を維持し、発展させ、次世代に引き継いでいくことを目的に、「千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定」を締結しています。区内10大学からお祝いの言葉を寄せていただきました。



「千代田のさくらまつり」に寄せて



坂の街にて桜をめでる

共立女子大学/共立女子短期大学 学長 川久保 清

東京は坂の多い街です。私は、街で坂をみつけるとその由来を案内板から読むのが好きです。 大妻女子大学のキャンパス前は、大妻通りですが、坂の名前は御厨谷坂(おんやまだにざか)で、 江戸時代に厩舎があったために名付けられたと説明されています。 大妻通りから靖国通りに出 ると、九段坂があり、その先には一口坂(いもあらいざか)があります。 「いもあらい」は疱瘡(天 然痘)を治すという意味らしいです。 坂の街で桜を観賞するのは坂の周辺の歴史が感じられ楽 しくなります。

さて、本学共立女子大学は創立 133 年になりますが、坂のない街、神田一ツ橋に主なキャンパスを構えてきましたが、本学の校章は、桜の花びらをデザインしています。

昨今、大学間の壁をこえた連携活動の必要性が高くなっています。「さくら」という共通のキーワードで、千代田区内の大学が連携して地域連携活動をおこなうことはいい機会です。このような企画をされた大妻女子大学に感謝します。



地域における大学の役割

城西大学 学長 白幡 品

本学のメインキャンパスとも言える坂戸キャンパスは、千代田区からは池袋を経由して東武東上線で1時間半ほどかかる埼玉県坂戸市にある。近くにある東京電機大学の提案に賛同して、近隣 17 大学が知恵を絞り、昨年、埼玉東上地域に教育連携のプラットフォームが発足した。人口減少に苦悩する地域に、若い世代を呼び込み、安心して暮らせる魅力的なコミュニティーの復活を、皆で考えようというチャレンジである。地域における大学の役割とは、地域を愛する心に基づいて、大学が知り得た新しい世界を人々と共有し、コミュニティーが困っていることを地域とともに考えることだと思う。まさに愛着のシンボルとなる千代田のさくらをキーワードとして、都市型のコミュニティーを大いに盛り上げる「大妻さくらフェスティバル」を、埼玉東上地域でも大いに参考とさせて頂きたい。



大妻さくらフェスティバル 2019 に寄せて

変わりゆく社会の動向は、新しい期待を抱かせると同時に、一方で一抹の不安も投げかけています。私たちが日々感じとる時間の経過にも、どこかせわしない印象を拭えません。そのような中にあって、安堵の気持ちをもたらしてくれるもの、それは悠久の時を超えて変わらぬ何かであったりするものです。

今年も、さくらまつりの時節を迎えました。季節の移ろいを実感することができるこのイベントは、咲き誇るさくらの美しさを通して、社会の安堵感を演出してくれる貴重な取り組みといえましょう。世界を代表する大都会東京の都心部にあって、このイベントが開催されることは、特段の意義を有するのではないでしょうか。それは国際的な日本の発信にもつながり得る大切な場であろうと思います。千代田区にこのような場が提供されることは大変誇らしいことと感じます。

ご準備、ご尽力を頂いたすべての方々に感謝を申し上げ、この貴重な機会を堪能させていただきたいと思います。



大妻さくらフェスティバル 2019 に寄せて

専修大学 学長佐々木 重人

今年も、千鳥ヶ淵の桜が美しい季節に、千代田のさくらまつり「大妻さくらフェスティバル 2019」が開催されますことは、心も華やぎ、誠に嬉しいことであります。継続的に開催されて おりますことに敬意を表するとともに、心よりお祝い申し上げます。

専修大学は、創立 140 周年を迎える 2020 年を目標に、靖国通り沿いの新校地に高層新校舎を建設し、国際系新学部の創設と商学部の生田キャンパスからの移設を行う予定です。既存の法学部もあわせ、3 学部のコラボレーションによる国際色豊かな新しい学びの場を創出したいと考えております。また、新校舎には桜を植樹し、千鳥ヶ淵から続く桜並木の一端を担えればと思います。

大妻女子大学が「大妻さくらフェスティバル」を企画され、リーダーシップを発揮されている ことにエールを送るとともに、千代田のさくらまつりを契機に、千代田区にある各大学の魅力を 共に発信していきたいと存じます。

「千代田のさくらまつり」に寄せて



大都会の「桜の森」に、山桜の春景色を探しに出かけよう

今年、外濠公園に桜の花が咲いたら、また山桜に出会えるのだろうか。

童謡に由来するバス停「夕焼小焼」が八王子市恩方にある。そこを起点に景信山周辺を歩く、 奥多摩駅から鋸山を経て三頭山を目指す、というコースは5月北アルプス行の足慣らしに向い ていた。北側斜面に雪の残る3月、下旬にもなると「朱のさした淡緑の葉とともに咲く」山桜 に出会う。弥吉が咲かせる山桜の艶やかさには敵わないが、孤高を守って凛々しい。*

人は桜に想いを寄せる。その美しさを桜に例えられた紫の上が愛でたのも、桜だった。西行法師が心を委ねたのも、桜だった。ソメイヨシノではない。もちろん「輝け帝都の花々」でもない。都会で咲き乱れ、華麗に散っていく桜に動かされる心。大都会の「櫻守」が見守るのは、「桜の森の満開の下」で宴に興じる人々の「心」かも知れない。

*弥吉は水上勉『櫻守』の主人公、植木職人の北弥吉。



世界で活躍できる人材の育成

二松学舎大学 学長 **菅原 淳子**

「千代田のさくらまつり」の一環として、「大妻さくらフェスティバル」が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

今年も桜の季節がめぐって参りました。千鳥ヶ淵や靖国通りの華やかさに心が躍ります。二松學舍は一昨年創立 140 周年を迎えたことを機に新長期ビジョン「N'2030 Plan」を策定し、大学の教育目標を「二松學舍といえば『国語力』」という評価が定着し、社会に貢献できる自律した人材を養成する」と定め、教育改革を進めていくことを確認致しました。また文学部に「都市文化デザイン学科」を、さらに国際政治経済学部に「国際経営学科」を新たに開設致しました。都心という地の利を生かして、「都市文化デザイン学科」では実践的なスキルを身につけて日本文化を世界に発信できる人材の育成に、「国際経営学科」では実務に直結する国際的な経営センスを身につけた人材の育成に努めて参ります。

二松学舎大学は、これからも社会の二一ズに応えながら地域に根ざした大学運営に取り組み、 地域貢献に励んで参ります。



日本歯科大学生命歯学部のヒミツ

日本歯科大学 生命歯学部長 沼部 幸博

昨年4月から、羽村 章前生命歯学部長より本職を引き継ぎました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

この度は「千代田のさくらまつり」の一環として「大妻さくらフェスティバル」が、かくも盛 大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

歯科医師を養成する医育機関として、全国には歯科大学、歯学部が29校ありますが、学部名に「生命」をつけているのは本学だけです。今から13年前に歯学部から名称変更したのは、本学の100年近い歴史の中での大きな出来事でした。これは、□の周囲の健康は全身の健康に通じ、歯科医師には医師同様、人々の命を守る大きな使命がある事を表現したものです。さらに□の中の病気を治す重要性だけでなく、食べ物の選択から始まり、□から入る食べ物を歯で噛んで飲み込むという、普通はなんでもないように見える一連の過程を、老いながらも正しく維持することが、健康寿命の延伸に繋がるという考えに基づいています。

「食と健康」を別の視点から見つめて行くのも、本学の使命のひとつなのです。



千代田のさくらに思う

日本大学 学長 **大塚 吉兵衛**

今年もまた、春爛漫を告げる「千代田のさくらまつり」の季節がやってきました。「大妻さくらフェスティバル」を毎年開催されていることに敬意を表します。

日本大学は本年、創立 130 周年の記念すべき年を迎えます。日本がまだ近代国家の礎を築いている時代に創立されて以来、神田三崎町、神田駿河台の地に複数の学部を創設し 100 年になり、その後、桜の名所の九段坂周辺の九段南に法人本部も移転しました。皇居周辺や靖国通りの桜とは縁の深い学び舎から数多くの学生が巣立っています。本学の教育理念は「自主創造」を掲げ、自ら考え、自ら学び、自ら道を拓く能力を身につけることを目指しています。この理念を胸に社会で活躍している校友の姿を見るにつけ、歴史と伝統を継承しつつ、現在の混沌とした世界の社会状況下で、これから益々活躍できる校友を送り出すよう、努めていかねばならないと決意をしております。

日本大学の校章には桜が取り入れられ、卒業式、入学式は毎年、日本武道館で執り行ってきており、卒業生、新入生ともに桜には元気付けられています。

「千代田のさくらまつり」と「大妻さくらフェスティバル」の益々のご発展をお祈り申し上げます。

「千代田のさくらまつり」に寄せて



江戸東京の桜に思いをはせる

法政大学 総長 田中 優子

法政大学の国際日本学研究所とエコ地域デザイン研究センターが申請した「江戸東京研究の先端的・学際的拠点形成」が文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」に採択された。これを機に、法政大学に「江戸東京研究センター」を作った。桜も、江戸と東京の華やかで晴れやかな都市環境を作る上で、とても大きな役割を果たしたわけで、当然、研究対象にできるだろう。しかし桜は、今までもずいぶん研究されてきたと思われる。

江戸時代はヤマザクラの並木が、隅田川べりや上野に作られた。江戸の中には、様々な種類の桜が、時期をずらしながら咲いていたのだ。しかし明治以降は、染井で開発されたソメイヨシノが植えられるようになり、やがてソメイヨシノ一辺倒になった。いっせいに咲いていっせいに散ってしまうのが惜しい。千代田区内の桜は、明治時代にイギリス大使アーネスト・サトウが東京府に寄付したことに始まるという。今や近代の桜が東京を飾っている。



地域との新たな連携モデルの構築を 目指して

明治大学 学長 十屋 恵一郎

桜が咲き始めたうららかな春は、新しいことへ挑戦する希望に満ち溢れた季節です。本年も 千鳥ヶ淵の色鮮やかな桜に迎えられた「大妻さくらフェスティバル」が「千代田のさくらまつり」 のもと、盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

本学も「千代田のさくらまつり」においては、「明大町づくり道場」を運営する学生たちが、 社会連携の一環として、そして主体的学びの実践の場として、本年も協力をさせていただいて おります。地域団体と大学生の新たな連携モデルの構築を目指して、地域の方々のサポートを 受けながら、社会の中で自ら課題設定をし、共に考え、解決策を共に創り出しています。キャ ンパスを飛び出し、普段とは異なる環境に身を置いた学びは学生を大きく成長させます。

今後も千代田区を舞台に、大学という枠組みを越えた学生同士のネットワークが深化し融合することで、地域社会の課題を解決するイノベーションが生み出されることを期待しています。 そして、このフェスティバルが区内の大学を繋いでくれることを願っています。

千代田学事業報告

千代田学とは、区内の大学が、千代田区に関する様々な事象を一つの学問として学ぶもので、平成 16 年度から始まりました。千代田区は、審査のうえ、その調査・研究に対し経費の一部を助成しています。



千代田区在住あるいは勤務している女性のための「妊活・妊娠・産後の食と運動と医療支援」 ~元気で楽しく素敵なママになるための応援~

大妻女子大学 家政学部食物学科 教授 川口 美喜子

1. 背景と目的

出生児の低体重の原因は、20代、30代の妊娠期にある女性の痩せが要因の一つであると報告されている。低出生体重児の減少を踏まえた健全な妊娠・出産を目指すためにWHOが提唱する「プレコンセプションケア(プレコンセプションケア(Preconception care)は、将来の妊娠を考えながら女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うことです。)」を課題に青年男女の健康観の意識とその改善に取り組むことが重要視されてる。

千代田区においては、昼中人口構成で妊娠を希望あるいは妊娠を考える年代の女性も多い。妊娠前、妊産婦の健全な身体の基本は、運動と食であり、区では結婚、妊娠、出産を予定する女性も多い現状で妊娠中の子育て・教育支援は手厚く実施されている。

今回の事業は、妊娠を希望するまたは将来の妊娠出産のために健康的な身体を維持しなければならない女性のために妊娠前から産後までを通して「食」と「運動」と「医療」の専門的立場からの協働で支援するセミナーを開催することでより充実した内容になることが期待できる。さらに、妊娠に向けての意識、健康観、栄養摂取状況、身体組成の現状を把握し、より良い身体の理解や改善への取り組みの方策を検討することを目的とした。

2. 事業の取り組み

対象となる女性は、妊娠出産を通して自身と胎児、乳児の健全な成長と健康を担う重要な時期にあるため、民間や風評なども含めあらゆる情報に困惑している状況にある。根拠ある正しい知識を啓発するためには、医療分野の医師からの情報提供もセミナー受講者にとって求められると考えられた。そのため、今回は食の専門職域である大妻女子大学家政学部食物学科と区内で運動の普及を支援している民間スポーツスクール(IWAアカデミー)と産婦人科医師と協働し、将来妊娠を希望する女性と妊娠中、出産後の女性を対象に講演と実技を実施し、更には参加者の実態調査と参加者に正しい知識を啓発するための運動、栄養指導カリキュラムの開発について調査研究を実施した。また、千代田区で働く女性が、職場から参加できるような業務終了後の研修会開催計画についてもアンケート調査を実施し、参加しやすいセミナーを目指した。

3. セミナーの内容





セミナー担当者

- ・栄養・食事支援 担当 大妻女子大学食物学科 臨床栄養管理研究室 川□美喜子教授
- ・運動・活動支援 担当 千代田区内の民間スポーツスクール IWA アカデミー 運動指導員
- ・医療的視点からの支援 担当産婦人科舘出張 佐藤病院院長 佐藤雄一医師

①体組成測定 (InBody770)

参加者は、InBody で筋肉量や骨量などを測定し、データーを解析してアドバイスした。

②食事写真解析

セミナー参加の中で希望者には、3日間の食事、間食など食べた物の全ての写真をメールで送ってもらい分析し、改善点やアドバイスなどの個人栄養指導票を作成しフィードバックした。



食事写真解析のフィードバック例

③献立提案と試食

「美しいカラダは産めるカラダ」になるためのメニューを学生が作成調理 し、実習の講義を行った。















一日の食事レシピ考案

第3回セミナー 第4回セミナー の調理 の調理

④運動についての講座と実技指導

スポーツスクールの指導員による、運動 講座の開催。映像と指導員の実演後に無理 のない範囲で体を動かす。







⑤栄養についての講座と実技

栄養学を学んだことがない 方でもわかりやすいように、 栄養・食事について試食をし ながら、会話形式で進めた。



⑥医師による講座

「女性ホルモンの特徴を知り、不調のないキレイな女性に」をテーマにした講演。学生も参加し、多くの質問があった。



⑦学生が作成中のレシピー集













4. まとめ

元気で楽しくすてきなママになってもらうために、多くの方に講座を聴き、実践してもらうため の提案

・開催方法について

開催日は、近年導入する企業が増えている「ノー残業デー」の水曜日を利用し、退社後の時間を 考慮した時間帯で開催する。

調理実習を希望する方向けのセミナーを休日に設定する。

子ども連れで来る参加者のために、子どものための料理や講義中に子どもをお世話できる環境を 準備する。

- ・妊娠中に意識して摂取したい大切な栄養素を取り入れた簡単レシピの提案、あるいは共稼ぎの方など調理時間が短い方には時短料理の提案が望まれている。 レシピー集を作成中である。
- ・参加された方には好評であるが、まだ多くの方々にセミナーを利用してもらうための広報について検討する必要がある。
- ・男性(パートナー)の参加もあり、実技や食事内容についても参加のニーズに応える、一緒に出来る運動や食卓の準備などの内容も取り入れる。
- ・課題である「プレコンセプションケア」の啓発のために青年男女の健康観の意識とその改善に取り組むために多くの学生がセミナーに関心を寄せる方策を考えていきたい。

小学生を対象にした千代田区の地域素材の 教材化に関する実践的研究

―「千代田区子ども検定」の作成・発信―

共立女子大学 家政学部児童学科 教授 本澤 淳子

1 研究の目的

千代田区について、児童は各教科等の学習指導や学校行事、地域行事を通して学び、また、日々の生活においても、さまざまな体験を重ねながら地域の文化・歴史・自然等を学んできている。千代田区についてのこうした学習や体験を、「千代田区子ども検定」として構成し、児童に提供するのがここでの主たる研究内容である。小学校教員を目指す学生により構成される本澤ゼミの3・4年生とともに本研究を推進する。

2 研究の内容・方法

■小学生の視点に立った文献研究、情報収集

区内の小学校中・高学年児童にとって、千代田区についての情報源となっていると考えられる資料を収集・精査し、小学生の視点から素材を選定する。

主な資料は、『社会科副読本 わたしたちの千代田区』(千代田区教育委員会発行)、千代田川柳絵葉書かるた、千代田区ホームページ、千代田区観光協会ホームページ及び同協会で配布している観光案内、各小学校学校要覧等、多岐にわたる。これに現地調査も加え、素材の選定を行う。

■交流の生まれるフィールドワーク

選定した素材について、ゼミ生が地域の方々と交流しながら取材・聞き取り調査等を行う。また、 千代田区教育委員会、千代田区内の小学校、学童クラブ、町内会等の連携・協力を得て、児童の地域との関わり、児童文化等について情報提供をいただく。

■地域の情報を「千代田区子ども検定」として構成

検定問題は、「問い〜選択肢(四択)〜答え・解説」の構成とし、最後に内容を印象的に表現した「ここで一句」も加える。検定問題の中で用いる画像は、すべてゼミ生が現地で撮影したものとし、イラスト等は無料ソフトからダウンロードして使用する。児童の語彙に配慮し、小学校第3学年を基準に漢字にルビを施す。作成した検定問題は、小冊子による部分公開を経て、最終的には特設 HPにて公開する。

■アンケート等により「千代田区子ども検定」の妥当性を検証

区内の小学生第3学年〜第6学年児童に「千代田区子ども検定」冊子を配付し、実際に解答することによって得た感想等を取りまとめる。検定問題として取り上げた内容への関心や親しみやすさ、初めて知識を得た満足感等から、検定問題の妥当性を検証する。

また、地域行事や学童クラブの活動において、実際に検定 HP を操作した感想等を集約し、興味をもって楽しむことのできる検定問題のあり方を検討する。

3 研究計画

〈1 年次〉

小学校中・高学年児童の視点から、千代田区の地域素材(歴史・文化・自然等)について取材・ 調査等の情報収集を行い、検定問題 10 問を掲載した「千代田区子ども検定 お試し版」を作成する。 この小冊子を千代田区内の小学校全 8 校の第 3 学年から第 6 学年児童に配付し、実際に問題を解くことに協力していただく。各問の正答率、実施後のアンケート調査から、「地域」に対する児童のもつ情報量や興味・関心等の実態及び検定問題の妥当性等を考察する。

〈2 年次〉

1年次の成果をふまえ、「千代田区子ども検定 千代田区博士チャレンジ版」(全50問)を作成する。

千代田区立お茶の水小学校第3学年~第6学年児童に配付し、実際に解いた感想等を集約し、 検定問題に反映させる。

〈3年次:本年度〉

検定問題を特設 HP で公開し、いつでも自由に楽しむことができる地域教材として活用できるようにする。HP の特徴は以下のようである。

- ・「千代田区の祭り・イベント」「千代田区の人物」「千代田区の川・橋・坂」のようにテーマごとに分類し、興味や関心に応じて検定問題を解くことができる構成にしている。
- ・社会科の地域学習を開始する第3学年児童に向けて、学区別にも問題を構成している。
- ・難解な語句、固有名詞等が抵抗にならないよう、音声(ゼミ生が問題を音読して録音)による提供にも対応している。
- ・検定問題と Google マップをリンクさせ、現地に足を運ぶ行動化を促している。

4 本年度作成した HP「千代田区子ども検定」より



検索トップ画面 音声付きにも対応



興味のあるコースを選べる構成

5 今後の研究に向けて

千代田学事業 3 年計画の最終年度に「千代田区子ども検定」の HP 発信という大きな成果を得ることができた。児童の学習素材として「地域」に着目し、それを児童の学習や生活の実態に照らして掘り下げることにより、有意義な教材開発が可能であることを実践的研究をもって明らかにできたと考える。

検定問題を発信している多くの自治体、団体等では、一度発信してしまうとそれ以降の更新が極めて少ないという現状がある。本検定では、地域住民や児童から改善案を積極的に受け、より親しまれ、生活や学習に活用される検定問題としていきたい。また、地域活動におけるコミュニケーションツールとなるよう、検定問題の更なる活用方法を検討したい。

千代田区における母子保健向上のための妊婦サロンの運営と評価

共立女子大学 看護学部 教授 岸田 泰子



1. 研究の背景と目的

核家族化が進行する都心部において、妊産婦の孤立を防ぎ、育児期につながる仲間づくりと妊娠期からの児への愛着形成促進の場を提供することは育児不安解消や虐待予防につながり、シームレスな妊娠期から育児期へのケアとしての可能性を有することから都心部の母子保健向上に寄与すると考えた。

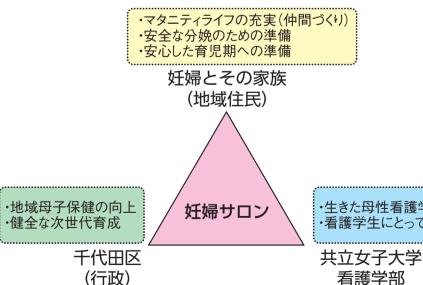
そこで本研究の目的は、都心部で生活する妊婦が、孤立すること なく仲間を得て、妊娠期から児への愛着形成を育みながら快適なマ

タニティライフを過ごせる場(妊婦サロン)を助産師であり、教員である研究者と看護学生が協働 して大学内において提供し、その効果を明らかにすることである。

なお本研究は、2017年度から千代田学の助成を受けて実施し、2018年度は活動2年目である。

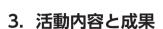
2. 本事業により期待される効果

3者の立場から考えた(図参照)。妊婦とその家族、すなわち地域住民にとっては、一生に何度も過ごすことのできない貴重なマタニティライフであるこの時期に仲間をつくり、豊かで充実した時間を過ごし、安全な分娩期を迎えるための心身共の準備を整えることが可能となる。また育児期の知識・技術や人的サポート環境を得て安心した育児期を迎えることにつながる。行政の千代田区にとっては、妊婦とその家族の健康の保持増進により、地域母子保健の向上と健全な次世代育成のための施策の一助となり得る。そして共立女子大学看護学部にとっては、学生が地域における生きた教材により母性看護学を身近なものとして学ぶことができる。さらに看護学生自身の次世代育成に働きかける体験ともなり得ると考えた。



・生きた母性看護学教育の場
・看護学生にとっての次世代育成モデル

共立女子大字 看護学部 (学生および教員)



2018年度の開催内容と参加者数は表のとおりである。昨年度の参加者の同窓会(産後母子の会)を1回、妊婦対象の会を10回開催した。のべ28名の妊婦、8名の夫の参加が得られた。また看護学生は35名が参加協力した。

表。2018年度 各月の参加	加者数と実施内容
----------------	----------

	5月15日	5月19日	6月2日	6月23日	7月7日	9月8日	10月6日	10月27日	11月17日	12月1日	12月8日	参加者のべ人数
妊婦 参加者数		3名	1名 上子1名	3名 上子2名 夫2名	2名 上子1名 夫1名	3名 上子1名 夫1名	2名	3名	2名 夫2名	6名 夫1名	3名 夫1名	28+8(夫)+5(児)名
産後母子 参加者数	6組	4組 上子1名		8組 上子1名 夫1名 祖母1名					1組 上子1名 夫1名			19組 上子3名 夫1名 祖母1名
学生 協力者数	5名	6名	7名	1名	1名	4名	1名	1名	2名	5名	2名	35名
サロン実施内容	同窓会 ベビーマッ サージ	分娩経過 母乳栄養 赤ちゃん 抱っこ 沐浴体験	マタニティ ヨガ 談話	母と子の コンサート 一部 産後 二部 妊婦	安産体操 母乳栄養	妊娠中の 栄養 マタニティ ヨガ	マタニティ ヨガ 分娩経過 抱っこ 談話	妊娠中の 栄養 調理体験	先輩パパ と話そう 出産体験 談話	マタニティ コンサート 談話	小児科医 講話 談話	

活動評価として、指標を用いた参加者への質問紙調査、またフィールドノート、学生のレポートの内容を分析中である。本サロンに参加していない都内在住の妊婦との比較検討も実施する予定である。

画像は実際の活動の様子である。



マタニティヨガの様子



「先輩パパと話そう」の会の様子



マタニティコンサートの様子



小児科医の講話の様子

『千代田まち歩き学習』事業

~多様な人がつながる地域コミュニティの形成の実験的試み~

上智大学 経済学部 教授 川西 諭

本研究の特色

千代田区では区内に昔からある町会や商店会等を基盤とする地域コミュニティと新たに転入してきたマンション居住者とのつながりをどう作るかが大きな課題となっている。

本研究は、上智大学の学生と教職員が、地域に住む方、働く方が参加する「まち歩き学習」イベントを定期的に企画実行することを通じて、参加者の地域に対する愛着を育み、地域愛を共有する新しい地域コミュニティを育むことを目的としている。

私たちの開発する「まち歩き学習」の特色は、①まち歩きが参加者中心のアクティブラーニングスタイルの学習プログラムになっていること、②上智大学の学生と教職員が地域貢献イベントを自ら企画実行し、さらにそれを改善していくことを通じて、自らも多くのことを学ぶサービスラーニングプログラムになっていることの 2 つの特徴がある。

従来のまち歩きは地域に詳しいガイドが地域の情報を紹介しながら街を歩くスタイルで、どうしても参加者が受け身になってしまう傾向がある。グループで与えられたミッション(指示されたものを見つける、街の魅力を見つける、問いに対する答えを見つけるなど)をクリアすることを通じて、参加者が協力して主体的に学ぶアクティブラーニングスタイルの学習プログラムを開発することで課題解決に有効なプログラムを開発したい。

地域課題を解決する「まち歩き学習」に参加することで、学生は地域社会の課題について深く学ぶことができる。またどうすれば一般の参加者が満足してくれるかを考えながら、学習プログラムを学生が主体的に企画、運営することを通じて学生が学ぶことも多い。参加者だけでなく、運営側の学生も学べる学習プログラムになっていることも「まち歩き学習」の特色である。

2018 年度の取り組み

2018 年度は開発した 6 つのまち歩きと学習プログラムを授業期間中に月に一回のペースで実施した。

5月20日(日)『バリアフリー地図アプリを体験して学ぶ みんなにやさしい街づくり』

概要:上智大学から四ツ谷駅へのルートを車椅子やアイマスクなどを使って障害者の立場を体験しながらまちを歩く体験学習プログラム。

定員20名 参加者9名

6月16日(土)『四ツ谷駅の今と昔を歩いて学ぼう』

概要:上智大学からイグナチオ教会、四ツ谷駅へのルートをゲーム感覚で歩く体験学習プログラム。 定員 20名 参加者 23名

7月8日(日) 『歩いて学ぼうホテルニューオータニ』

概要:上智大学の隣にあるホテルニューオータニの中をゲーム感覚で歩く体験学習プログラム。 定員 20 名 参加者 38 名



10月14日(日)『まち歩き学習 上智大生と歩いて楽しむ紀尾井町!』

概要:「紀尾井」にあるスポットを大学生と一緒にゲーム感覚で歩く体験学習プログラムです。 定員 30 名 参加者 14 名

11月17日(土)『千代田の癒し探し& グリーンマップ作り』

概要:千代田区で Web 上の情報地図作りをされている団体 Chee's さんと一緒に上智大学から平 河天満宮まで歩いて、癒しのグリーンマップ作りをする体験学習プログラム。 定員 30 名 参加者 15 名

12月16日(日)『ご近所訪問!帝国データバンク資料館』

概要:四ツ谷駅から新宿区四谷本塩町にある帝国データバンク資料館までを歩き、資料館内を見学 したのち資料館をもっと楽しむ方法をみんなで考える体験学習プログラム。 定員 30 名 参加者 16 名

課題:参加者募集に波があることや、小中学生、高校生の参加がないことが課題。今後は、マニュ アルを作成し、他大学でも実施できるプログラムへと完成度を高めていきたい。



まち歩き学習の様子



ホテルニューオータニにて

江戸エコに学ぶ、千代田の食品ロス削減 -ヘルシーな食、工夫して楽しむ、思いを馳せる-

東京家政学院大学 現代生活学部現代家政学科 教授 上村 協子

1. 研究の目的と背景

食べられるのに廃棄される食品、「食品ロス」の削減にむけて多様な取組がされている。現代家政学科では、生産者と消費者を結ぶプロシューマー教育として、2015年10月31日現代生活学セミナー『食品ロスを考える一冷蔵庫の中から地球が見える一』を開催、阿南久消費者庁前長官やフードバンク「セカンドハーベスト・ジャパン」理事長マクジルトン・チャールズ氏、松本市役所、スターバックスコーヒーの方と学生が司会をつとめ意見交換をするなど、多様な食品ロス削減活動に取り組んできた。学生たちのボランティアサークルは、フードバンクの炊き出しなどに参加し、現代家政学科専門科目『プロシューマー実習』(担当 上村・宮川)では食品ロスに関わる調査研究成果を千代田区消費生活展で報告してきた。

2. 2018 年活動の成果

2-1 江戸エコかるたの作成

2018年度千代田学では、現代家政学科で中学校・高等学校の家庭科教員免許取得を目指している3年生22名が、44の江戸エコかるたの読み札・絵札を作成した。

学生たちは、江戸時代に現在でいう「エコ」な暮らしが様々なところで実践されていたことに着目し、農と食をつなぐ創意工夫や、廃棄を次の生産につなぐ知恵から「庶民の味」が編み出されてきたことを、44 組のかるたに文字と絵で表した。

かるた1枚1枚に、江戸のエコの知恵をこめて、表現した。



<カルタ読み札例>

- (け) 現代も学ぶエコ飯 江戸の食
- (と) 豆腐はね 様々な品に 七変化
- (り) 利休飯 一粒残さず 食べ切ろう
- (そ) その食材 塩漬け乾物 保存食

2-2 大江文庫の錦絵を活用し江戸の食を学ぶ

家庭科教育法 C では履修学生たちの理解が深まるように、東京家政学院大学名誉教授の江原絢子氏からの江戸の食文化に関する講義をうけた。また、本学の江戸時代の料理書「豆腐百珍」や錦絵を活用して学ぶことができるように、図書館に協力をもとめて進めた。

http://www.kasei-gakuin.ac.jp/original/home_economics/news/2018/09/post-76.html



2-3 多世代と交流し食品ロス削減を呼びかけ(2018年7月~2019年1月)

- 7月 26 日~ 27 日 高校生向け・高校教員向けの広報として、全国高等学校家庭クラブ連盟主催の全国研究発表大会(会場 文京シビック)でポスター展示などを行った。
- 11 月 9 日 千代田区第 20 回くらしの広場(消費生活展)でカルタを展示して、食品ロス削減を呼びかけた(千代田区役所会場)区民への広報のみならず出展者と交流ができた。



- 12 月 1 日 エコサイクルフェアに出展(於 千代田区役所)。
- 12 月 1 日 二松学舎大学で行われたコンソーシアムでポスター展示し、報告した。 本取り組みは、東京家政学院大学 現代家政学科ホームページで公開。消費者庁の HP でも公開 予定である。

2-4 食品ロス大学生調査3年継続

プロシューマー実習では、工業化社会の大量生産・大量消費により、大量廃棄される食品を消費 (食)と生産(農)をつなぐプロシューマー(生産消費者)の視点で捉えてきた。2016年度からは、 持続可能な社会形成に大学生がいかに関与できるのか、履修学生がアンケート及びインタビュー調 査を実施した。

2018年のアンケート調査(健康栄養学科 105名、現代家政学科 107名)を現代家政学科 3年生8名に従来の調査を引き継ぎながら実施した。賞味期限切れの商品に対しての自分の行動は、期限は気にせず五感で判断 67%、過ぎたら美味しくないから飲食しない 12%、過ぎたら危険だから飲食しない 6%、過ぎたら五感で確認し判断 5%、その他 10%であった。今回新たに賞味期限表示を「年月日」から「年月」に変更したことで食品ロスは減ると思うかという問いを追加した。減ると思うと回答した学生は 20%であり、変わらない 33%、わからない 36%と回答する学生が多いという結果となった。

3. おわりに

賞味期限表示のない江戸時代には五感を駆使して知恵を使い共同して食材を活用していた。今回の江戸エコかるた作成活動からは、大学生が、若いアイディアで SNS やアプリなどを駆使して食品ロス削減の仕組みを提案し持続可能な地域社会に変えていく当事者となる可能性が示唆された。

千代田区の郷土資料を用いた Wikipedia記事作成ワークショップの展開

二松学舎大学 文学部都市文化デザイン学科 専任講師 谷島 貫太

1. プロジェクト概要

ウィキペディアの執筆を通して地域のことを知り、また地域の情報を広く発信していく「ウィキペディアタウン」というワークショップがあります。本プロジェクトは、大学のゼミの活動としてこのワークショップを企画、運営することで、地元の人たち、外の地域の人たち、学生とが交流を深めながら地域の歴史や文化財について知り、また地域について発信していく機会を生み出していきます。

2. ウィキペディアタウンについて

ウィキペディアタウンは、日本では 2012 年頃から実施され始め、いまでは日本各地で活発に実施されています。多くの場合、ワークショップは街歩きセットで設計されます。午前中に取材を兼ねた街歩きを行い、午後にはチームに分かれ郷土資料/地域資料を調査しながら地域の史跡、文化財などについての記事を執筆していきます。その際、街歩きしながら撮影した写真もウィキペディアの姉妹サイトであるウィキメディアコモンズにアップロードし、記事に組み込みます。作業の成果はウィキペディアの記事として公開され、即座に世界中に発信されることになります。

3. プロジェクトのねらい

本プロジェクトには大きく以下の狙いがあります

- ・地域の歴史についてより深く知り、愛着を深める機会をつくる
- ・地域の情報をウィキペディアの記事として発信していく
- ・学生が地域について知り、また地元の人たちと交流する機会をつくる
- ・ワークショップの企画、広報、運営の全体を学生が担当することで、プロジェクトマネージメントについての総合的なスキルを身につける

4. 実施内容

本稿を執筆している 2019 年 1 月現在ですでに 2 回のワークショップを実施し、2 月に 3 回目のワークショップの実施を計画しています。

① 2018年6月2日(土): 学内の学生向けの予備ワークショップ

ワークショップ実施のノウハウを蓄積するため、二松学舎大学文学部都市文化デザイン学科の 1 年生を対象とし、予備ワークショップを実施。

以下の記事が作成された。

「三崎三座」/「北桔橋門」/「常灯明台」/「平河天満宮」/「弁慶橋」/「柳森神社」/「牛ヶ淵」

② 2018 年 11 月 17 日 (土): 一般向けワークショップ「ウィキペディアタウン in 秋葉原 Vol.1」 学生が企画、広報、当日運営を担当し、秋葉原にあるサテライトキャンパス「AKIBA Lab.」を 会場として一般向けのウィキペディアタウンを開催した。当日は地元の方も含む計 11 名が参加した。以下の二つの記事が作成された。

[昌平坂] / 「神田青果市場]

なお、この日のワークショップの様子はフリーペーパー「月刊神田画報」で取り上げられた。





③ 2019年2月16日(土):一般向けワークショップ「ウィキペディアタウン in 秋葉原 Vol.2」 ワークショップでは以下の記事が作成された。

「鎌倉河岸」/「既製服問屋街発祥の地」/「伝馬町処刑場跡」

WebGISを用いた 千代田ヴァーチャル時空散歩アプリの構築

日本大学 文理学部国文学科 教授 田中 ゆかり

プロジェクトについて

本プロジェクトでは、千代田区の文化資源と日本大学文理学部の情報資源を最大限に活用することを目指し、基盤サイトの充実とそれに基づく「千代田ヴァーチャル時空散歩」ができるプロトタイプアプリの構築に取り組みました。

千代田区は江戸・東京の中心地としての歴史を持つことから、区内に歴史・文化財が多数存在します。例えば、標柱・説明板・碑といった名所・旧跡や、建造物、石碑といった千代田区に関連する人物などです。このようなコンテンツを、Web 上の地図にマッピングし、それを誰でも使えるように無料で公開すれば、一般の方々にも利用しやすい形で千代田区の歴史・文化財の価値を共有することができるという考えに基づくものです。

コンテンツ類を Web 上の地図にマッピングするプラットフォームのひとつに、研究代表者らによる「江戸・東京 WebGIS」(2013年から公開中)があります。これは、Google Map に近世・近代期の古地図や文学テキスト・写真を配置し、近世・近代・現代を透かし見ることで江戸・東京圏を再構築することを目指したものです。この「江戸・東京 WebGIS」には、さらなる充実を望む声も寄せられていましたので、本プロジェクトでは千代田区の豊富な文化資源を「江戸・東京 WebGIS」に搭載することとしました。

2018 年度中に、当該サイトを基盤としたスマホで閲覧可能なプロトタイプアプリ「江戸東京物語」と、千代田区に焦点を絞りコンテンツ搭載箇所で立ち寄るとスタンプを集めることのできる「御朱印帳」をイメージしたゲーム性をもつ「ちよダッシュ! | の完成を目指しています。

2018 年度の取り組み

(1) 「江戸・東京 WebGIS」の増補

千代田区から提供を受けた区内設置の標柱データを「江戸・東京 WebGIS」に搭載しました(下図:標柱データの展開イメージ)。この他、田中敦著『落語を歩く』(岩波新書、2017年)等を基に、落語に登場する地名情報等も搭載しました。右の QR コードからサイトにアクセスできます。千代田区役所を中心にクリアファイルと絵地図を組み合わせたサイト案内グッズも準備中です。





(2) プロタイプアプリの構築

「江戸・東京 WebGIS」をベースとしたスマホ用プロトタイプアプリの制作は、文理学部情報科学科・谷聖一研究室の学部生らが卒業制作の一環として取り組みました。アプリは「江戸・東京物語」・「ちよダッシュ!」(右図:「ちよダッシュ!」 アイコンイメージ)として公開予定です。Android, iOS どちらでも使用できるようになることを目指して準備を行っています。



(3) 資料搭載のための実地調査

WebGIS・アプリに搭載する資料増補のため、日本大学文理学部・経済学部開講授業において実地調査を行いました。文理学部国文学科・竹下義人教授担当「フィールドワーク入門」では千代田区麹町界隈の文人街を、経済学部・山岸郁子教授担当「ゼミナール」では、千代田区内の文学史跡や、アニメやマンガの舞台となったいわゆる「聖地」についての調査を行いました(右図:学生による実地調査風景)。



千代田区の中高生を対象とした歯科保健プログラム推進事業

日本歯科大学東京短期大学 教授 大島 克郎

1. はじめに

千代田区における児童・生徒の歯・口の健康は、う蝕有病者率が東京 23 区のなかでも低値を示していることに表されるように、良好な状態にあるといえる。しかし、中学校期におけるう蝕有病者率の増加傾向は著しく、この時期に東京 23 区平均との差が縮小している。こうした背景から、本学では予てから近隣学校の児童・生徒などを対象に歯科保健事業に取り組んできた。

今回の本事業では、対象学校として千代田区内にある中学校・高等学校 1 校を設定し、歯科保健に関する調査研究・健康教育活動を行うことにより、青年期における適切な歯科保健習慣の定着を図るためのプログラムを確立するとともに、対象生徒の生涯を通じた歯科保健意識の醸成を図ることを目的とする。また、本事業では、本学専攻科の学生が主体となり活動することにより、地域貢献を担う意識を具備した歯科衛生士を育成する目的も併せ持っている。

2. 事業経過・方法

(1) 事業内容の企画・調整等

2018 年 4 ~ 7 月に、対象学校との歯科保健事業に関する事前調整を行うとともに、専攻科学生を中心とした事業内容の企画・立案等をした。また、本事業の実施にあたっては、日本歯科大学東京短期大学倫理審査委員会の承認(承認番号:東短倫-224)を得て行った。

(2) 事業実施・評価等

夏期休暇中の特定の日を定めて、希望者を募り、専攻科学生 10 名が主体となり事業を実施した。主な事業内容としては、①感染症予防に関する講義、手指消毒に関する講義・実習、②自記式質問紙調査による口腔保健行動や口腔保健への理解度の把握、③う蝕・歯周病のリスク検査、およびこれらのデータを用いて視覚的にう蝕予防法等を提示することによる歯科保健指導、④災害時の感染予防対策に関する講義などを実施した。

また、対象者の行動変容を評価するため、事業実施から2か月後に口腔保健行動に関する自記 式質問紙調査を実施した。2018年10~12月にデータ分析・事業評価等を行った。

(3) 主な成果と考察

事業参加者は計 16 名であった。かかりつけ歯科診療所で口腔衛生指導を受けたことのある者は 9 割を占めていたものの、日常におけるブラッシング回数や時間への効果には反映されていないことが明らかになった。

事業実施 2 か月後の口腔保健行動の変化を評価したところ、統計学的有意に、鏡などで口の中の様子をよく確認するようになり (p=0.035)、いつも時間をかけて磨くようになった (p=0.031) ことが示された (Wilcoxon 符号順位検定)。

本事業の実施・評価等を通じて、対象者は、歯科診療所への定期受診などの環境面における整備はなされているものの、個人の口腔保健習慣の定着には至っていないことが示唆された。その一方で、事業実施後には口腔保健行動の変化が生じており、事業の一定の効果がみられたものと推察された。

(4) 成果発表等

本事業の成果は、2018 年 12 月に新潟県で開催された「平成 30 年度日本歯科大学歯学会第 5 回ウインターミーティング」において学術発表を行った。なお、本発表においては、本学歯科衛生学専攻の学生が中心となり発表準備を進め、その代表者が筆頭発表者を担った。

また、本事業成果は、2月に開催される千代田区域コミュニティ醸成支援事業ちよだコミュニティラボライブや、本学で開催予定の公開講座における発表などを通じて、幅広く発信していく。

3. まとめ

本事業の実施は、個人の口腔保健習慣の定着に至っていない中高生に対して、一定の行動変容をもたらす効果があることが認められた。その一方で、今回の事業参加者は、当該対象校から無作為抽出した者ではなく希望者を募っているため、口腔保健に関して意識の高い者の集団であることが考えられ、本事業内容を一般化して展開していくには、データ検証が十分な状態にあるとはいえない。

今後の目標は本事業の一般化であるが、今回の事業実施を踏まえ、事業スキームの検証をさらに 重ねていき、プログラムの確立を目指していくこととする。

また、千代田区では、2012 年 10 月に「千代田区歯と口腔の健康づくり推進条例」が施行されていることから、その政策的動向も注視しつつ、より適切な事業展開が図れるよう努めてまいりたい。

共同研究者:教授 池田 利恵、教授 合場 千佳子、准教授 関口 洋子 他 専攻科歯科衛生学専攻生10名

九段・神保町地区の地域資料のウェスアーカイス化とその活用

法政大学 エコ地域デザイン研究センター センター長 福井 恒明

背景

千代田区は江戸期以来東京の中心地として歴史・文化が最も集積した地域のひとつであり、地域 史に関する資料(地図・写真・絵はがき・公共事業等の図面など)が充実している。それら資料に 基づく地域史への理解は専門家の間ではある程度共有されているが、千代田区民はもとより、まち づくりに携わる行政職員や建築業関係者の理解すら十分ではない状況である。

今後、地域の歴史文化を尊重し、その特徴を活かしたまちづくりを行うためには、行政・住民・ 事業者等の関係者の地域に関する共通理解を推進することが必要である。

目的

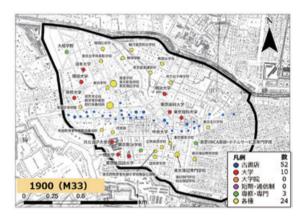
地域史資料の存在を地図上で確認し、容易に参照できるアーカイブシステムをウェブサイト上に 構築する。その上で、地域史資料の活用性・閲覧性を高める方法について考察する。

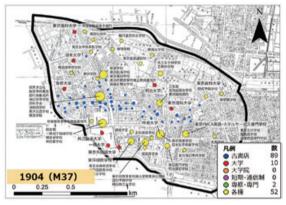


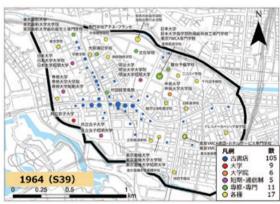
Omeka の画面イメージ

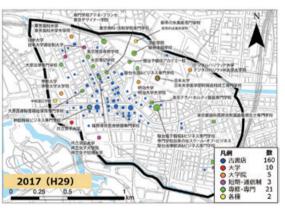


- 1) デジタルコレクションのためのコンテンツ管理システムである Omeka システムを運用する。
- 2) 九段・神保町地区における地域史資料を収集し画像データ化する。
- 3) 収集した画像データを Omeka に登録する。
- 4) アーカイブ化した地域史資料はウェブ地図上で確認できるようにする。









地域資料の活用イメージ (神田神保町における教育機関と古書店街の変遷)

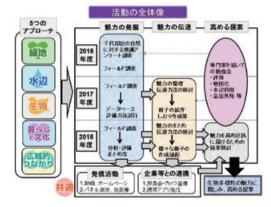
緑・水辺・生き物による 千代田区の魅力化プロジェクト

法政大学 人間環境学部 教授 高田 雅之

1. めざすもの

都市の自然は身近にあって私達に様々な効用をもたらしてくれる一方で、その魅力に必ずしも気付いておらず、十分に恵みを享受しているとは言えない。そこで千代田区内の自然要素の魅力を学生の感性と目線で掘り起こして表現し、多くの区民や関係者に知ってもらい、新鮮な眼差しで都市の自然を眺めてもらう方法を提起するとともに、さらに都市の自然の魅力を高めるための提案につなげたいというのが本活動の目指すところである。

今年度は引き続き千代田区の自然に関する魅力



について、調査で得られた成果の伝達方法を検討し媒体試作や SNS 発信、企業とのコラボによる 実践活動などを行い、さらに自然の質と魅力を高める提案に向けた検討を進めた。これらの千代田 区の自然の魅力へのアプローチとして「緑地」「水辺」「生き物」「暮らしと文化」「広域的なつなが り」の5つの視点で活動を実施した。

2. 活動の成果

(1) 自然の魅力に関する調査と評価

「緑地」について引き続き環境及び魅力調査を実施したとともに、移動手段としてちよくる(コミュニティサイクル)を活用した区内散策ルートづくりを目指して現地調査を行った。「水辺」も同様に現地調査を行うとともに、ビオトープの視点から千代田区を中心とする 15ヶ所の調査を行った。「生物」は主要緑地や皇居お濠を対象に野鳥調査を行い、データ分析(多様性評価と希少度、皇居の水鳥の過去との比較など)をしたとともに、昆虫についても調査を行った。「暮らしと文化」について神社・動物カフェ・浮世絵など生き物に関わる文化について調査を行うとともに、食と農の観点から屋上利用の可能性について調査と実際の栽培活動を行った。「広域的つながり」の視点から東京湾と近郊の里山の魅力を調査し、区民が身近な自然に広い視点から興味を持つ手立てを検討した。また東京湾の生物や水質について市民活動グループと連携してデータ分析を行った。

(2) 自然の魅力をわかりやすく伝達する媒体づくり

「緑地」の視点から、若い女性をターゲットに緑地に誘う「緑地女子」の秋冬バージョン、及びちよくるを活用した緑地散策サイクリングマップを作成した。「水辺」の視点から、千代田区内の9箇所の水辺ビオトープを紹介する「びおちよ」冊子を作成した。現在庭園の水辺の魅力を紹介する「そうだ、庭園に行こう」の冊子を作成中である。「生物」の視点から、野鳥の特徴から観察に親しむことのできる「部位図鑑」を作成中である。また教育普及を目的に「野鳥かるた」や野鳥をモチーフにした「Book しおり& Book カバー」などのグッズを作成した。「暮らしと文化」の視点から、千代田区を中心とした生き物文化をまとめた冊子を作成したとともに、生物文化スポット

をめぐるモデルコースの紹介をする「千代田区あにまっぷ」や、動物が描かれている浮世絵を題材 にした「浮世絵生物図鑑」、さらには"農"のポテンシャルとしての企業・屋上緑地紹介冊子を作 成中である。「広域的つながり」の視点から、感性に訴えて海と川を紹介する冊子を作成したとと もに、食・レジャー・芸術・産業などから貝をとらえた「東京貝体新書」や、近郊の里山の魅力を まとめた「里山写真集」を作成中である。















緑地女子 vol.2 秋冬版

ちよくる緑地 散策マップ

水辺ビ

感性に訴えた

まちなかの トープの紹介 川と海の紹介 生物文化を紹介

冊子を作製中

(3) 活動情報の発信と企業との連携活動

随時の活動情報について、Facebook、twitter、Instagram などの SNS や大学ホームページを 利用した外部への発信を行った。Instagram フォロワーは現在のべ 356 人である。

企業との連携について、三井住友海上火災保険㈱と共同で駿河台緑地において月1回の社員及 び一般市民を対象とした探鳥会を継続するとともに、自動撮影カメラの画像識別作業とデータ分析 を実施した。探鳥会ではリピーターが増え、10回参加いただいた方も複数となった。また大日本 印刷㈱(DNP)が開発したスマホ向けの寄り道アプリ YORIPに、街の魅力に気づいてもらうコン テンツを提供するため、DNP と法政大学法学部と三者で 3 回のワークショップを開催し、寄り道 スポットの発掘とコンテンツを作成した。さらに NPO 法人銀座ミツバチプロジェクトと連携して 屋上でサツマイモを栽培し、地方でこれを付加価値の高い焼酎にすることを通して地域と都市との 交流活動を行う「銀座芋人」活動を実施した。

今後は3年間の活動をもとに提言をまとめるとともに、2月にはECOM 駿河台にて成果のパネ ル展を行う予定である。

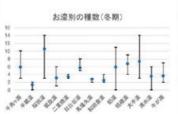


三井住友海上火災保険㈱ との共同探鳥会





「銀座芋人」活動



2014 ~ 2017 における皇居お濠の 水鳥調査データの分析



大日本印刷㈱とのコラボ、 スマホアプリ「YORIP」画面

「インターユニバーシティ神保町」による「まちの図書館」を立体的に展開するためのまちづくりビジョン調査と提案

明治大学 理工学部 教授 小林 正美/教授 山本 俊哉/教授 田村 誠邦

神保町の魅力を生かしたまちづくりを目指して

私たちインターユニバーシティ神保町は、大学の枠を超えて連携し、神保町の魅力を生かしたまちづくりについて研究を進めている。具体的には、地元関係者と約10年前に打ち出した「まちの図書館」というまちづくり構想を立体的に展開するため、戦前からの古書店街形成の歴史を振り返りつつ、最近の変容状況をあぶり出し、地元関係者の意向調査や土地建物の現況調査、それらの研究集会を重ねてきた。

今年度は、生業を続けられるまちづくりに関するフォーラムや居心地の良さの向上をテーマにしたワークショップを開催するとともに、靖国通り沿道の土地建物の空間形態と権利関係に関する実態調査やモデルスタディを通して、まちづくり構想の具体化を検討した。以下、それらの成果を報告する。

生業を続けられるまちづくりフォーラムの開催

古書店や出版社など関係地権者を対象に、「生業を続けていくための開発のあり方を考える」と題したフォーラムを4月と6月に開催した。このフォーラムでは、靖国通りに面した小規模な敷地をモデルスタディとして試算すると、①公租公課は約50万円/月、相続税は約3,000万円になること、②個別建て替えでは、借入金返済(約1,600万円/年)に30年近くかかり、事業化は推奨できにくいこと、③共同建て替えのほか、低層の単独建て替えの余剰容積の売却も検討に値するなど古書店街の建て替えに関するシナリオを示し、参加した延55名の関係地権者らと質疑応答・意見交換を行った。

「神保町の将来を考える」ワークショップの開催

昨年度のアンケート結果を受け、「居心地の良い空間」をいかに生むか、神保町の関係地権者や書店・飲食店・出版関係者を集めたワールドカフェ方式のワークショップを6月に開催し、神保町の将来について意見交換した。大学関係者を含めて30名ほどが3班に分かれて3時間議論した結果、神保町で本を買ってすぐカフェなどで読む「黄金パターン」は変わっていない



ワールドカフェ方式で開催した「神保町の将来を考える」ワークショップ

が、来街者が増えて本が読みにくい雰囲気になっており、女性や外国人などの来街者向けの心地よい空間づくりの必要性や、道路や公開空地など屋外に座れるスペースをインフラとして整備する必要性などの意見が集約された。



靖国通り南側の現地調査を実施して、建物の形態、正面デザイン、搬入口、営業時間、くつろぎ空間の現状を把握し、間口や高さ等を計測して 1/500 の市街地模型を作成した。また、不動産登記情報を取得し、土地または建物を家族で共有している場合が多く、建て替えの際の合意形成が課題になること、靖国通りに面した建物で築 35 年以上の古い建物が多く、後述するモデル街区に集中している傾向があること、個人ではなく法人が土地や建物を所有する傾向が近年強まっていることを明らかにした。

モデル街区の共同建て替えシミュレーション

築35年以上の建物が多い街区をモデル街区に、総合設計制度等の都市計画諸制度を活用した共同建て替えのシミュレーションを実施した。具体的には、街区単位又は隣接街区を統合して、道路に面する建物1階部分に小規模店舗を並べ、上階はオフィス等にした全14パターンのプランを描き、建物のセットバックや公開空地の配置、容積率、配置店舗数などを比較した。



市街地模型を使って共同建て替えシミュレーション結果を比較検討

靖国通り沿道南側の街並み形成に関するルールの検討

シミュレーション結果の比較検討から、総合設計制度等は公開空地を生み出すが、靖国通り沿道に面する店舗数が減り、連続した街並みが乱れ、神保町らしさが損なわれる可能性が明らかになった。地元地権者も参加したワークショップでは、銀座ルールのような地区計画を策定して空地や路地の配置を計画的に誘導する方向性が共通認識となり、駐車場の附置義務の緩和や歴史的建造物等の空中権の移転などが検討課題として浮き彫りになった。

以上の成果と課題は、今後地元関係者を交えたシンポジウム等を開催して議論を深め、広げる予 定である。

共同研究者:共立女子大学 家政学部 教授 堀 啓二 東京都市大学 都市生活学部 講師 中島 伸 日本大学 理工学部 教授 根上 彰生 東京大学 先端科学技術研究センター 助教 泉山 塁威

地域貢献プロジェクト

広く地域の皆さまへ大妻女子大学の教育と研究成果を還元し、皆さまの多様な学習ニーズに応えるとともに地域社会の教育、学術、文化の発展に貢献する活動の推進を図ることを目的として、平成26年度からスタートしました。

今年度は7件のプロジェクトが採択されています。

平成30年度 地域貢献プロジェクト採択課題

- 子どもの創造性を育てるものづくりワークショップ (家政学部 教授 大两 一也)
- 障害者雇用を支える現場スタッフのためのゼミナール II (人間関係学部 教授 小川 浩)
- ジュニアアスリートのためのスポーツ栄養セミナー (比較文化学部 准教授 久保 忠行)
- 認知症や精神疾患を抱える人々の地域移行・地域定着を学ぶ ワークショップ(人間関係学部 教授 藏野 ともみ)
- 東京都少女サッカー大会 (小学生)支援プロジェクト (比較文化学部 准教授 高田 馨里)
- 「だし」で育む和食のみらい推進プロジェクト 2 (短大家政科 准教授 富永 暁子)
- 大妻力を世羅町の第6次産業支援につなげる地域貢献活動の試み (短大家政科 教授 堀口 美恵子)

大妻女子大学地域連携推進センターは、地域を対象とした教育・研究活動等を通じて、地域の皆様方と交流を深めるとともに、本学が持つ知的資産を地域へ還元し、地域を発展させるための取り組みを行って参ります。

地域連携推進センター HP:http://www.chiiki.otsuma.ac.jp/



地域連携プロジェクト報告

大妻女子大学では、学生の主体性や自立心が身に付く地域連携活動の一層の推進と発展を図ることを目的として、平成25年度に「地域連携プロジェクト」を創設しました。「地域社会との連携を活性化するとともに、学生の教育に資する活動」をテーマに、今年度は16件のプロジェクトが採択されています。



神保町の出版と書店を元気にするプロジェクト

代表者:教職総合支援センター 常勤特任講師 深水 浩司

目的

本プロジェクトは、近くて遠い存在である「神田神保町」との連携を深めるために、学生さんたちには神保町を知ってもらい、神保町の方々には大妻学院を知っていただくために初めて計画されたプログラムである。神田古書店連盟の協力を得て、多摩校「図書館サークル OLIVE」のメンバーを中心として、以下の活動を計画し、実行した。

報告

1. 千代田区立千代田図書館 「としょかんのこしょてん」展示

「女子教育を支え続ける大妻学院の宝物」と題して、大学図書館と博物館の所蔵・収蔵品を展示した。大妻コタカによる『模範裁縫教科書』や、『ごもくめし』と『教えの道をひとすじに』の外国語版、学院収集の貴重書、瓶細工の実物などを展示した。

期間:2018年10月9日(火)~10月27日(土)

場所:千代田図書館 9 階、『としょかんのこしょてん』展示ケース(8 台)

図書館来館者数:1899名(1日平均数)

2. 「古書を知り、古書を楽しむ 書物と神保町の歴史を学ぶ」

古書と神保町を知るために、古書の世界(日本の書物と古書店、古書流通について、写経や写本、版元と印刷本など、平家物語や百万塔などを例にとり解説)と、神保町を学ぶ(神保町の歴史、神保町と文豪の関係、神保町の未来など)の2部に分けて、八木書店会長、八木壮一氏による講演会を実施した。

日時:2018年10月26日(金) 14:00~16:30 **場所**:千代田校 人間生活文化研究所 セミナールーム

参加人数: 26 名

3. 「初心者でもできる本の修復」(神田古本まつり併催イベント 古書店連盟協力)

神田古本まつりの併催イベントとして、初歩的な本修復を理解し体験するイベント。和紙や自然糊(でんぷん糊)を用いた、本や環境にも優しい修復を学んだ。講師は、日本図書館協会 資料保存委員会会長の眞野節雄氏に依頼した。

日時: 2018年10月27日(土) 13:00~17:00

場所: 日本教育会館 810 会議室 **参加人数**: 15 名 (15 名定員)

計画には、「女子大生による神保町マップの作成」があるが、2019年2月以降の実施予定である。各イベント等の実施日時の関係で、直接プロジェクトメンバーである学生たちが関与できる場面が少なかった点は、今後の反省として生かしていくつもりである。今後も神保町と学院との関係を深め、相互に人や情報の流れを増すよう努力したい。

からきだ匠力フェ〜地域がつながる場所〜

代表者:人間関係学部人間関係学科 准教授 八城 薫



多摩キャンパス(唐木田)周辺は病院、福祉施設、教育施設など様々な施設が存在し、身体や心に不安を抱えても安心して暮らすことの出来る環境が整っています。そこで働く専門家(匠)集団が連携して吸引役となり、日頃から地域の様々な属性、世代の方々と繋がるような居場所づくりをすることで、いざという時に助け合えるような地域でありたい。そんな想いから2017年度4月、あい介護老人保健施設、社会福祉法人楽友会、多摩市社会福祉協議会の方々との連携で活動をスタートさせ、このプロジェクト"からきだ匠カフェ〜地域がつながる場所〜"が生まれました。

♪テーマソング

「からきだ匠カフェ〜笑顔の咲くところ〜」

からきだの道に 百本シダレ 桜咲くこの街に はじまる物語 からきだ通りに 咲くハナミズキ 唐木田のこの店に 集まる屋下がり 歳のせいだとか 病気のせいとか そんなことは忘れて 笑顔咲くところ からきだ匠カフェ だれもが匠だね 笑顔と歌で 広がってく 世代を超えて 僕らをつなげる 架け橋さ

「からきだ匠カフェ」は、毎月第4水曜日の15時から2時間ほど、唐木田駅前のレストラン"キッチンティス"さんのご協力をいただいてオープンしています。本学からは、主に臨床心理学専攻の大学院生が企画メンバーとして参加し、活躍してくれています。昨年末には、2018多摩市事例発表会にて我々の活動を「多職種・多世代でのコミュニティカフェ運営とその効果」として発表し、会場賞をいただきました。

お子様からお年寄りまで、様々な方々で一緒に楽しむ場所・空間づくり、「共生社会」の実現を目指す本学学生の実践の場づくりを目指して、これからも楽しく活動を続けていきます。

活動内容

- 第1回 4月25日(水) 新しいつながりを作ろう!~唐木田周辺の情報交換~
- 第2回 5月23日(水) ココロ♡を遊ばせてつながろう!~粘土細工で脳と心へ働きかける~
- 第3回 6月27日(水) 自分の中の匠を見つけよう!~「旅のことば」ゲームで自己発見~
- 第4回 7月25日(水) 夏休みちびっこ企画①~チャレンジ・ザ・大道芸~
- 第5回 8月22日(水) 夏休みちびっこ企画②~ちびっこ夏フェス~
- 第6回 9月26日(水) 認知症を知ろう!~天本病院看護師 曽谷真由美さんによる認知症セミナー~ <番外企画> 10月20・21日(土・日)多摩祭企画
- ~ヨガ体験レッスン、描画で自己発見、匠の技の実演&販売(タティングレース、ハンドリフレ、 ヘアアレンジ、ネイルなど)~
- 第7回 10月24日(水) マインドフルネスレッスン~呼吸と気づきで心のリラクゼーション~
- 第8回 11月28日(水) 女子大生に今時を学ぼう~匠カフェのインスタ映え写真を撮ろう~
- <番外企画> 12月11日 (火) 2018 多摩市事例発表会にて活動発表 第9回 12月19日(水) クリスマス会〜みんなで歌いましょう〜
- 第 10 回 1 月 23 日(水) 新年会~匠カフェのテーマソングを作ろう!~
- 第 11 回(2 月 27 日(水)うたごえカフェ〜楽しく歌いましょう〜
- 第12回 3月27日(水) 認知症フォローアップ研修会
- ※上記の企画実施のために、毎月1回程度で企画会議を行っています。









大妻囲碁フェスタ 坂の上の街を囲碁で盛り上げる

代表者:家政学部児童学科 教授 川之上 豊

スポーツ教育研究室では、本学地域の中で活発に行われているスポーツ関係の活動がないかを調査した中で、今回は「頭脳スポーツ」としての囲碁を取り上げることとした。取り上げた理由は、本学の地域には囲碁を推進している棋院会館(五番町)があること、また、九段小学校の囲碁大会で優勝した実績や、この地域の小学生の放課後活動として囲碁が盛んにおこなわれていること。さらに千代田区内では毎年囲碁大会が開催され、囲碁が盛んな地域であることなどから、囲碁を通しての地域交流を図ることを目的とした。

囲碁については、2010年のアジア大会の競技種目としても取り上げられており、年齢・性別・国籍・障がいの有無を問わず楽しめるゲームとして東南アジア地域を中心に世界中で普及している。なお、本プロジェクトは、千代田区と(公財)日本棋院に後援を、九段商店街振興組合には協賛を頂き、日本棋院子ども囲碁サロン支部に協力を得て開催した。

囲碁フェスタの開催状況については、日時と場所:平成30年11月4日(日)10時~16時、大学校舎地下1階アトリウム、参加者:50名[囲碁大会24名、入門教室26名、(子ども16名と大人34名)]、講師:(公財)日本棋院原幸子棋士(入門講座)と一宮正人氏普及事業部部長(囲碁大会)の協力を得て実施した。囲碁入門教室は原棋士の熱心な指導もあって、参加者からは「とてもわかりやすく楽しかった」「実際に対局しながら不明な点をスタッフの方々に教えてもらったのが良かったです」等の感想も多く好評であった。囲碁大会では、有段者9名、級取得者15名の参加と、やや人数が少なかったが「じっくりと囲碁ができた」「直接対局するのは初めてであったので楽しめた」や、「今後も続けてほしい」等の意見もあり概ね好評であった。お、2勝した方には九段商店街振興組合から商品が授与された。

課題としては、本学関係者の参加が少なかったので、次回は参加を促したいと考える。



写真 1:看板(書道部作)



写真 3:大人の対局風景



写真 2: 入門講座の様子



写真 4:子どもの対局風景

どろん子大運動会と寺子屋活動

社会情報学部情報デザイン専攻 教授 炭谷 晃男

1. 経緯

地域の子どもたち及びお年寄りの方の支援をめざすプロジェクト。これまで第一段階では、多摩市、八王子市の公民館等と連携して、夏休みに「子ども新聞」を製作したり、コミュニティセンターでの高齢者を対象とした「携帯電話教室」を実施した。第二段階として、子どもたちの学力支援のため寺子屋を開催した。高齢者に対する活動は福島県の相馬市にある大野台仮設住宅を訪問して飯舘村の皆さんに「携帯、タブレット教室」を2年連続実施した。今年度は、第3段階として、多摩キャンバス周辺の小学校で寺子屋活動を実施し、近隣の田んぼでの「どろん子大運動会」という子どもの居場所づくりの活動を行った。

2. プロジェクト

a. どろん子大運動会

6月3日(日)、京王堀之内駅から徒歩20分ほどの田んぼで田植え前の代かきとして子どもたちを集めて運動会を開催した。行った種目は、ドッチボール、竹引き、リレーの3種目である。また、隣接の田んぼでは未就学児を対象とした泥遊びコーナーも設けた。また、この事業は、東京薬科大学自然サークルASIATOと帝京大学児童文化研究会STEPの合同で実施した。日頃どろん子になるという体験はなかなか出来ないので、参加した親子には大変貴重な体験が出来たと大好評であった。競技終了後は学生達が作った豚汁を食べてもらい、躰を温めて帰宅してもらった。









b. 寺子屋活動

多摩キャンパス周辺の八王子市立松木小学校、長池小学校で月に1回程度土曜に、教室や体育館を借りて子どもの活動を支援する寺子屋に於いて活動を行った。6月2日、7月7日、9月8日、10月20日、11月23日、12月8日、1月19日、2月23日、3月21日の9回実施。内容としては寺子屋学習教室、料理教室(クッキー、フルーツポンチ)、ボッチャ、プログラミングカー、鳴こづくり、アニメーション教室等を実施した。

3. 効果

①参加学生には計画、実施、振り返りという PDCA 体験する貴重な社会的体験となった。②こどもたちに教えるという貴重な体験をもつことが出来た。 ③このプロジェクトを通じて大学での学びの意義にリアリティを 持つことが出来たと考える。

三番町アダプトフラワーロードの会との地域美化活動

代表者:家政学部児童学科 教授 石井 雅幸

三番町フラワーロードの会という名称で、九段小学校、三番町会、(株)プランナー・ワールド、大妻学院が協定を結んで 2007 年から行ってきた取り組みです。

この会は、三番町を通る番町学園通りの街路樹下の区画にお花を植えて、飾りましょうという ことでスタートしました。この会がスタートした頃は、児童学科の有志の学生と教員がボランティ アとして参加していました。今では、児童学科の1年の学生が全員参加して行っています。

6月と11月に街路樹下の区画に夏のお花、冬のお花を植えて飾っています。また、夏場は特に土が乾燥してしまうので、お花に水をあげたり、雑草を抜いたり、枯れてしまったところに新たに花を追加したりしています。

九段小学校が、今年度の秋から三番町に戻ってきて、これまでのようにお花を植える活動が子供たち中心に戻りました。本学の児童学科の学生にとっては、子供たちと一緒に活動できることを楽しんでいます。それだけに、日頃の水やり、草取りにも学生たちは力を入れて実施しています。

地域の皆様の輪が広がり、この取り組みのスタート時に比べてお花を植える区間も拡充しただけでなく、新たなお仲間も増えてきています。本学院の中でも数年前から大妻中高の生徒さんも参加し、中高周辺の街路樹下の区画にお花を植えています。さらに、花を植える作業を行っている区画に「フラワーロードの会」の看板を取り付け、九段小学校の子供も学生も町会の皆さんも自分たちが行っているのだという意識が高まってきています。今後もどうかよろしくお願いします。









里親・ファミリーホームの子ども支援プロジェクト

代表者:人間関係学部人間福祉学科 専任講師 山本 真知子

1. プロジェクトの目的

近年、虐待などさまざまな理由で実の家庭で生活できない子どもたちを家庭で養育する里親やファミリーホームが増加しています。本プロジェクトは、NPO 法人東京養育家庭の会・みどり支部と東京都八王子児童相談所と連携し、里親やファミリーホームの子どもたちが他の家庭の子どもや学生とのつながりを持つ子どもスペシャルの実施やみどり支部の全体活動での子ども支援を行いました。他の里親家庭の子どもとの関係を作り、相互交流を深めることを子ども側の目的とし、学生にとっては社会的養護の理解、子どもの理解、児童相談所や児童福祉施設とのつながりを持つ学習機会を得ることを目的としています。

2. プロジェクトの概要

「子どもスペシャル」は7月21日に高尾の森わくわくビレッジにおいて行われました。テスト期間だったため学生の参加は大妻女子大学人間福祉学科の山本ゼミ4年生2名が参加しました。子どもスペシャル当日は、委託されている子どもの中でも幼児・小学生の保育を中心に活動しました。非常に暑い日でしたが、子どもたちの健康に配慮しながら実施することができました。9月8日にはみどり支部の全体活動を南大沢青少年センターで行いました。前日から3年生は準備を行い、当日は里親も参加し、里親は児童相談所主催の里親サロンを行い里親の交流を行いました。山本ゼミ3・4年生18名と卒業生8名が参加し、幼児・小学生の保育に加え、中・高校生の焼きそば作りにも参加しました。

3. プロジェクトの成果

本プロジェクトを行うことによって、子どもたちは他の里親家庭との横のつながりができ、18歳で自立をする際に他の家庭の子どもの姿や体験談から学ぶことができます。普段は学校も異なり、住んでいる地域も離れていることで交流することは難しいため、子どもの支援の機会があることは非常に大切です。また、学生にとっては実際に里親家庭の子どもと接することで、それまでの机上だけの学びのイメージを変えることができ、児童相談所や児童養護施設等の社会福祉専門職との出会いから学ぶことができました。今年度は卒業生も参加し、先輩と後輩のつながりを持つことができました。

今後も子どもたちの意見を取り入れ、継続して活動していきたいと考えています。



千代田&多摩地域 子供自然体験教育プロジェクト

代表者:家政学部ライフデザイン学科 准教授 甲野 毅

【目的】

本プロジェクトは、環境イベントの参加、自然体験教育プログラムの企画・実施、大妻祭への参加の3つの環境教育の実践からなる。子供の成長にとって自然体験は重要な役割があるとされているが、現在の子供たちは自然と触れ合う機会が減少しており、自然との距離が開いている状態にあると言える。この問題を解決するために、私達ができることは子供達に少しでも自然と触れ合うことができる体験機会を提供することである。また、このプロジェクトは学生が主体となって行うことから、調査、企画、実践の手法を学ぶ良い機会になると考える。そして最終的に、地方自治体と協働して実施し、大妻女子大学のキャンパスがある千代田地域、また多摩地域の自然環境に貢献することも重要な目的である。

【活動内容】

環境イベントの参加では、立川市の環境イベント開催主旨に従い、環境教育学ゼミナール内で自然体験教育プログラムを企画し、実践する。与えられたイベントスペース内で行い、来場者に対してプログラムを実施し、環境の大切さを伝える。自然体験教育プログラムでは、地域のニーズに合わせたプログラムを自治体と協議しながら、学生が最初から企画、計画を行なう。そして自然豊かな都市公園において、参加者を募集して実践する。大妻祭では、来訪者に、学生が実習で訪れた妙高高原の里地・里山の現状を、五感を通して体感してもらいながら、理解してもらうために、企画、実践を行う。

【結果】

立川市環境イベントでは、60名の子供達にリサイクル素材を活用した風鈴体験をしてもらった。自然体験教育プログラムでは、都市公園を5つのゾーンに分け、22名の子供達に5種類の自然体験教育を実施することができた。そして大妻祭では教室を体感スペースに演出し、50名の来訪者に里地・里山を体感するプログラムを実施した。

プロジェクトの成果の第1に、子供への自然体験教育を行うことで、開いてしまっている自然との距離を縮め、子供達の成長に良い効果を与えたと考える。例えば、子供の集中力が高くなる、また優しく思いやりを持つようになるなどの内的状態を変化させる可能性がある。また他人に優しくコミュニケーションをとることができるなど外的状態を変化させることもある。第2に、学生自身が主体となって行うことで、学生自身が調査、企画、実践力を身につけることができたであろう。そして最後にそれぞれのキャンパスのある地域において、子供達の自然体験の創出という、ささやかな形であるが社会貢献活動ができたと思われる。







大妻大学祭



自然体験教育プログラム

能登の里海を守る: 伝統漁と地域の活性化プロジェクト

代表者:社会情報学部環境情報学専攻 教授 細谷 夏実

【目的】

これまで私たちのゼミでは、世界農業遺産でもある能登の里海保全に関する活動を行ってきています。本プロジェクトでは、能登の伝統漁である「ボラ待ち櫓漁」を題材に、里海の大切さを知り、活用に向けた理解を広げるため、情報交換と発信の場づくりをめざすことを目的として活動を行いました。

【活動内容】

具体的な活動として、以下の2つのイベントを開催しました。

○公開講座「能登の里海スクール」開講(2018年10月6日)

オープニングで穴水町産業振興課の樋爪友一課長から世界農業遺産・穴水町のご紹介をいただいた後、第1部では、トラベルライターの朝比奈千鶴さんと、ゼミ卒業生で企画・地域力プロデューサーの齋藤雅代さんから、能登の食文化にふれる旅についてお話をいただきました。第2部では、ボラ待ち櫓漁を復活させた穴水町里海里山推進協議会の会長・岩田正樹さん、山瀬孝さんをゲストに迎え、ゼミ合宿で能登に行ったゼミ生たちと、漁の存続、里海保全などについて、公開トークを行いました。当日は学外からも、地域連

携に取り組む大学の教員の方、能登の地域に 興味を持つ一般の方、移住を検討している方、 など、熱心な参加者にいらしていただき、質 問や貴重な提案をいただくことができました。

○大妻祭出展(2018年10月27日28日)

ゼミでは、3年前から文化祭に参加し、能登の紹介・物産販売などを行っています。今年は会場内に「ボラ待ち櫓漁」のコーナーを設け、山瀬さんにもいらしていただいて、櫓漁の魅力などを来場者に紹介しました。

【まとめ】

今回、2つのイベントを通して、ボラ待ち櫓漁や能登の地域のことを知っていただく機会を提供することができました。実際、両イベントで行ったアンケートでは、「伝統漁法を知れてよかった」「ボラを食べてみたい」「(穴水町に) 具体的なイメージを持つことができた」「ボラ待ち櫓に乗りたい」などといった感想が寄せられていました。

今後も里海保全や地域の活性化に向けて、地域の方たち、学生たちと力を合わせていろいろな取り組みを行っていきたいと考えています。









親子の居場所づくりに向けた「大泉こども食堂」プロジェクト

代表者:家政学部児童学科 准教授 加藤 悦雄

1. 目的

子どもや保護者が地域の中で、固有名を持つ存在として他者と関わり合う機会、一人ひとり大事な存在として見守られていることを実感できる機会は減少してきている。そのため専門的なサービスは増えているが、さまざまなデータが子どもや保護者を取り巻く課題の深刻化を示唆している。本プロジェクトの目的は、①子どもや保護者一人ひとりの気持ち、例えば「ご飯を食べて一息つきたい」「好きな遊びをしたい」「話を聴いてほしい」「勉強を見てほしい」などに丁寧に向き合い、子どもや保護者主体のつながりや場所づくりに取り組むこと、②将来、教職や福祉職を目指す学生が地域における子ども支援・保護者支援に参加し、経験的にその方法や大切さを学ぶことである。

2. 活動の成果

学生は現地(練馬区内の一軒家を活用)に10時30分に集合し、環境設定や食事作りに取り組む。11時30分頃から子どもたちが来ると、一部の学生は子ども対応に移ることになる。12時頃から食事時間であり、学生も親子の輪に入って、お話をしながら食事をする。その後は16時頃までいろいろなことをして過ごす。開催日として、4月28日(土)、6月23日(土)、7月28日(土)、9月1日(土)、10月20日(土)、11月23日(金)、12月22日(土)、1月19日(土)、2月23日(土)、3月16日(土)の10回である。現時点で8回終了し、延べ111名の親子の参加があった。

参加した学生の声を紹介する。「小学生男児とキャッチボールをしたことが印象的だ。私はあまりキャッチボールの経験はなく、一度目はうまく投げられなかった。翌月にまた誘われ、『上手くなったねー』と 10 歳以上年下の小学生に言われると思わなかった。彼の母親は彼の妹 (2 歳)の育児で忙しいためか、ここでは『二人で遊ぼう』『二人でキャッチボールしよう』と、二人で



手打ちうどん作りの様子

することにこだわった。私が他の子どものほうを見ていたら、抱きついてきた。『自分をもっと見てほしい』『甘えたい』というアピールとして受け取った。『面倒見のいいお兄ちゃん』という印象だったが、いつも我慢し、がんばってきたのだなと感じた」。

その他の成果として、社会情報学部の学生の卒論作成に



しょうが焼き定食

協力したと同時に、 日本家政学会第3回 家政学夏季セミナー (子どもの貧困と子ど も食堂)に招待され、 活動報告する機会を 得た。

誰もが子どもを見守り隊プロジェクト

一子どもも大人も誰かが不自由だと思うことを知るために、私たちの「伝える」取組み一

代表者:人間関係学部人間福祉学科 教授 藏野 ともみ

本プロジェクトは、これまで児童虐待防止啓発活動と子育て支 援に取り組んできた。その中で、子育では地域社会の中で行い、 多様な状況にある人々と共存しながら行っている現状を改めて認 識する機会を得てきた。

今年度は、児童虐待防止啓発活動であるオレンジリボン運動を 主軸にしながらも、子育でをする上で不自由な状況は、それ以外 の人にとっても不自由に繋がること、また異なる不自由を感じて いる人もいることをお互いに知るという視点を重視し、「伝える」 ことに取り組んできた。具体的には、地域の機関と共に活動したり、 様々な立場の人たちのお話を伺い、大学祭を利用して体験企画や パネル展示を行った。

特に大学祭の体験企画では、電車とホームの段差を再現し、ベ ビーカーを押す体験と、同じ状況を車椅子を使う体験を実施し、 周囲の手助けがどのくらい当事者にとっては必要なことかを考え て頂いた。

また、同時の企画として、白内障を抱える高齢者と色覚障害を 持つ人の体験をしたり、埼玉県作業療法士会の指導を受けて精神 疾患等を持つ人の幻聴体験等を行った。

現在子育でをしている人が、高齢者や障害を抱える人の状況を 知ってくださったり、高齢者が幻聴体験を通じて、病気を抱える 人が日常生活を送る上で不自由な状況にあることを共有して頂く 機会になった。

実際に幻聴体験した人からは、「こんな状況なんですね、ニュー ス等では聴きますが、本当に混乱します」とか、親子でベビーカー

体験をした人からは、「あなたが子どもだった時、私(母親)頑張ったんだよ」と話してくださる等、 様々なお話や感想を伺うことができた。

また、千代田区や警視庁、企業等と一緒に、東京駅八重洲口で行われた児童虐待防止啓発活動









どれも自分たちが「伝える」活動で あるが、体験してくださったり、足を 止めて話を聴いてくださる方々からお 話を伺うことで、私たち自身が自分た ちにできることは何か、相手に併せて 伝えるためにはどの様な工夫をすれば 良いか考える機会となった。来年度以 降、活動を引き継いでくれる後輩に伝 えていきたい。

地域の子どもたちが体を動かして仲間と遊べる ロボット中心の遊び環境づくり支援

代表者:社会情報学部情報デザイン専攻 教授 松田 晃一

子どもの成長環境において「遊び」は重要な役割を果たしていますが、近年の子どもたちは少子高齢化社会やポータブルゲーム機の普及などにより多人数や多学年に渡る友だちと一緒に遊ぶ機会が年々減少しています。一方、社会的にはそういった人間的活動に対してロボットや人工知能といった先端技術が急速に発達しつつあります。そのような背景のもと、本プロジェクトでは地域の児童たちが集まり、ロボットを中心として多人数で身体を動かして遊べる環境を提供するため、多摩市立唐木田児童館と連携したイベントを9月19日に実施しました。

イベントは、いかに児童らにロボットを受け入れられるかと人手を介さずに自動的に行えるかに重点を置き開発しました。内容は、ロボットを人間らしく親しみやすいと感じ、普段はあまり運動しないゲーム好きの子でも進んで参加したくなるよう、ロボットを中心とした全員参加型のクイズ大会としました(図 1)。

唐木田児童館では、平成27年と平成29年にも、地域連携イベントとしてペッパーによる「ようかい体操」や1台のペッパーとゼミ生による「クイズ大会」を開催しましたが、今回は3台のペッパーが連携しながらほぼ人手を介さずに自動的にクイズ大会を進行しました。





図 1 唐木田児童館におけるペッパー3台が連携したクイズ大会の様子

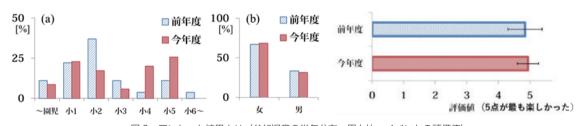


図 2 アンケート結果より(参加児童の学年分布・男女比・イベントの評価値)

イベント後のアンケート結果より、今年度は高学年の参加者が増え男女比はほぼ 2 対 1 で、評価値も前年度と同様に高い値でした。今回のイベントから、人手を介さずとも複数台のロボットによるイベントの実施が可能であり、人間が中心に行ったイベントと同様に児童らが楽しめることが分かりました。これにより、イベントの運用人数を前年度の3名から1名に減らすことができ、今後の課題は、複数のロボットを用いてイベントをさらに自動化することです。協力していただいた唐木田児童館の多学年に渡る児童らが、全員が集まって遊ぶことの楽しさを再認識し、ロボットや人工知能といったテクノロジーにも関心を持つことを期待したいと思います。

唐木田発:学生と地域でコラボする体験型防災講座

代表者:人間関係学部人間関係学科 准教授 堀 洋元

(目的)

学生が地域住民とともに防災講座を実施することで、地域の活性化や地域防災力向上の架け橋となることを目的としています。プロジェクト活動3年目である今年度は、これまで実施した中で好評だった「食」に関するアイデアを活かし、大妻多摩祭にて体験型防災講座を実施しました。

〔プロジェクトの概要〕

活動 1 年目は、学生独自の視点を活かした学外での防災講座を行いましたが、2 年目はそれだけでなく、事前アンケート調査で地域のニーズを踏まえた上でアレンジを加えて実施しました。今年度は、地域の方々とともに大妻多摩祭に防災講座を出展し、学生と地域で協働することを試みました。

1. 立川防災館での災害対応に関する体験学習(8月)

体験型防災講座に活かすべく、多摩地域にある防災施設で体験学習を行いました(図 1)。室内を想定した大地震を疑似体験し、地震発生直後の対処方法や家具類の転倒・落下防止措置の必要性について学んだり、AEDの使い方を体得しました。さらに震災現場を再現した空間で、要救助者の捜索から救出するまでの体験学習を行いました。



図 1 立川防災館での体験学習の様子

2. そなエリア東京での災害対応や食に関する体験学習(8月)

防災体験ゾーンでは、発災から脱出し、避難するまでの3日間を臨場感のある施設で体感しました。また防災学習ゾーンでは、事例に学ぶ災害の様相や地域情報コーナーで最新のデータに基づく災害の知識を習得し、自助体験などを行いました。防災食の展示などを参考に、防災講座での試食アイデアについて検討しました。

3. 大妻多摩祭での体験型防災講座の実施(10月)

多摩市社会福祉協議会、ほっとネットしょうぶ(唐木田・中沢・山王下等地区地域福祉推進委員会) 有志の方々と協働して体験型防災講座を実施しました(図 2)。非常食の試食や防災クイズ、ペットボトルの有効活用など、参加者に興味を持ってもらえるような身近なものを取り上げて体験してもらうイベントとなりました。自助のための体験が共助にむすびつく光景も垣間見られました。



図 2 体験型防災講座の様子

〔プロジェクトの効果〕

学外の方々と協働することは多くの調整を必要とすることもあり、社会人になる前の社会勉強として良い機会になったようです。学生は、このプロジェクトに主体的に参加することでさまざまな経験を整理できました。そして防災講座としてその成果を形にすることで、体験による学びを活かすことができたようでした。

多摩における子育て家族の 居住・住み替え支援プロジェクト

代表者:社会情報学部環境情報学専攻 教授 松本 暢子

平成30年度地域連携プロジェクトでは、子育て家族の居住ニーズで重視されている「公園」のあり方について考える多摩市公園緑地課による「多摩中央公園プレイスメイキング社会実験」を含む市民参加のワークショップに学生および教員が参画しました。これは、昨年度のワークショップの成果「子育て家族の住環境では自然環境が重視される」ことの延長です。加えて都市計画課との連携で、「子育て家族の住まい・住環境に関する調査」を市内全幼稚園の保護者を対象に実施しました。

1. 多摩中央公園ワークショップ「多摩中央公園をもっと楽しく使う方法、一緒に 考えませんか?~将来にわたり楽しく使い続けられる公園を目指して~

10月から12月まで、4回のワークショップに参加し、とりまとめの会には学生からの提案を行いました。従来の公園の使い方を見直し、市民に求められる公共空間としての公園(改修)について、市民に加わり検討しました。「社会実験」では、ワークショップでのアイデアを1日限定で実施し、その評価を行いました。これらの経験を経て、提案(四季を感じられる公園、大階段の改修、プレイパークの提案等)をまとめました。



2. 「子育て家族の住まいと住環境に関する調査」(10月~11月)

昨年度の全保育園園児の保護者を対象とした調査に引き続き、全幼稚園園児の保護者を対象として実施しました(対象者 2213 件、回収 1159 件、回収率 52.4%)。この集計結果を昨年度の結果と合わせて分析を行うことで、子育て家族の居住・住み替えの現状と課題を提示する予定です。

大学近隣店舗と学生とのコラボレーションによる「健康×ボランティア」プロジェクト

代表者:家政学部食物学科 教授 高波 嘉一



TABLE FOR TWO (TFT) は、開発途上国の飢餓と先進国の生活習慣病の問題を同時に解決するために生まれた日本発の社会貢献活動で、対象となるヘルシーメニューを1食購入した代金のうち20円が、開発途上国の子どもの学校給食1食分として寄付されるという活動です。今回のプロジェクトは、大妻女子大学前に店を構え、健康志向の惣菜、食品を販売する「メゾンデリス」とコラボレーションし、大妻生へのTFT周知と健康意識の向上、活動を通じた地域連携の活性

化を目的に、「ボランティア×健康→持続可能社会の実現」をコンセプトとした商品の企画・開発・ 販売に取り組むというものでした。

主に夏休み期間に打ち合わせを重ね、メニューの開発と販売計画を練ってきました。今回TFTメニューとして開発した「玄米オムライス弁当」は、味や食感がよい福岡県糸島市産のミルキークイーンという米の玄米を使用することにしました。玄米は白米に比べて血糖値の上昇が緩やかという効能に注目し、これに良質なたんぱく質を豊富に含む卵を合わせることで健康面にこだわりました。さらに、ソースには同店手作りの無添加ナポリタンソースを使いました。





10月からメゾンデリス前で、週2日ほどのペースで販売を開始し、11月末の販売最終日まで計11回の販売を行い、販売期間全体で104食を売り上げました。寄付金額としては1食20円なので計2,080円と少額ではありますが、途上国の子どもの給食104食分相当となる寄付をお預かりし送ることができました。本プロジェクトに携わった学生は、感想を以下のように述べています。

- ・普段から利用させて頂いていたメゾンデリスさんとコラボができて嬉しかった。
- ・実際に自分達でチラシを配ることで、宣伝の難しさや楽しさを実感した。
- ・この活動を通して、学生や地域の方々に対し TFT の認知度を上げるとともに、地域の店舗であるメゾンデリスや福岡県糸島市の良さも伝えることができた。

本プロジェクトにより、普段の授業では学ぶことができない経験や責任感を、学生は心に刻むことができたと思います。また今回のような「ボランティア×健康」といったコンセプトが、今後の持続可能社会の実現に向けた1つの重要なソリューションになる可能性を感じ取ることができたのではないかと考えています。本プロジェクトの実現に多大なご支援を賜りました、大妻女子大学地域連携センターに深く感謝申し上げます。

障害者雇用企業との連携によるTボール大会の開催

代表者:人間関係学部人間福祉学科 教授 小川 浩

多摩地域には、大企業の特例子会社が多く存在しています。特例子会社とは、大企業が法定雇用率達成のために子会社を設置し、障害のある人に合った仕事を集め、知的障害者を中心に障害者雇用を行うものです。この企画は、そうした特例子会社から成る多摩障害者雇用企業連絡会との連携の下、企業で働く障害のある人のTボール大会を大妻多摩キャンパスで開催し、学生がボランティアとして関わることで、特例子会社で働く障害のある人と福祉を学ぶ学生との交流機会を設け、特例子会社と大学、障害のある人と学生、双方にとってのウィンウィンの関係を目指すものです。

今年度は平成30年4月29日(日)、大妻女子大学多摩キャンパスの上と下のグラウンドにおいて19社25チーム、約900人が参加して開催されました。学生は小川ゼミの3・4年生を中心に、人間福祉学科の専門科目である「障害者支援と障害者自立支援制度」での呼びかけに応えた2年生も加わり、約30人が参加しました。学生の役割としては、会場準備、会場案内、お弁当の配布など運営面のサポートを行うと共に、試合が始まると各チームに入り、チームの一員としてプレーしたり、応援を盛り上げたりするなど、各チームにすっかり溶け込んでいる様子が見られました。

また、今年度はこの経験を基に、10月21日(日)に大妻学院110周年事業の一環として、学生を中心とする実行委員会の主催で「110周年記念大妻杯Tボール大会」を開催しました。多摩障害者雇用企業連絡会主催の例年の大会と異なり、学生実行委員会が主催の大会としため、企画、事前の説明会の開催、パンフレットの作成、トロフィーの手配、当日の運営など、全体的な運営を学生が行いました。全8チームの小規模な大会でしたが、大妻女子大学学生チームを1チーム作り、学生による手作りの大会に出来たことが今年度の特筆すべき成果と言えるでしょう。



むささび食堂:食事で心の共生を

代表者:家政学部食物学科 教授 田中 直子

【目的】

「こども食堂」が注目を集める昨今だが、本プロジェクトは単なる食事の提供だけでなく「子ども自身があり合わせの食材で献立作りや調理を行う自立支援」を大きなテーマとしている。子どもだけで過ごす時間の長い子どもたちが気軽に参加できる「むささび自習室」の関連事業として、子どもと大学生、地域の大人がともに楽しく料理をしながら、さまざまな知恵を伝えていく。そんなプロジェクトが「むささび食堂」である。

大学生にとっては、日頃接する機会の少ないお年寄りの知恵を借りながら、子どもたちと食を通して繋がる体験をするプロジェクトである。大学生が食を通した地域の共生を肌で感じ、その中で自分ができることについて考える機会となることを目的としている。

【活動内容と成果】

活動内容: むささび自習室に集まってくる子どもたちと一緒に昼食とおやつを作る。

事前に子どもたちが楽しめるメニューを考え、材料を買い出しし、当日は扇谷調理師さんの指導のもと、作って、食べて、片付けまでを子どもたちや地域ボランティアの方々と一緒に行って、さまざまな世代の人たちとの交流を深める。

活動日:6/10、8/18、10/21、11/18、1/20、3/23の計6回

活動の成果: むささび食堂の活動は、子どもたちが喜んでくれるメニューは何かを考えて一緒に作り、その反応を見て次にまた考えるという、小さな PDCA サイクルの積み重ねで

ある。集まる子どもたちが変わったり、人数が変わったり、地域から提供される食材が変わったり、そのような状況に柔軟に対応する力を学んでいく。今年度は参加する学生が多く、回ごとに学生の組み合わせも変わったため、学生間の調整力も磨かれた。















イベント出演団体紹介

大妻さくらフェスティバルのステージを彩る10団体をご紹介します!

十代田区立九段小学校 九段囃子の会

時間 10:00~10:50

内容 投げ合い・素囃子

「九段囃子」は九段小学校の特色ある教育活動の一つとして、今年度は 3 年生から 6 年生の計 40 名が地域の方に指導していただいています。月に $2\sim3$ 回程度金曜日に活動してきました。

お囃子はお祭りには欠かせないものです。その音は日本人の心に心地よくしみわたっていきます。九段囃子の活動は、子どもたちが日本の伝統文化に触れる、よい機会となっています。

今回は、3年間練習を積み重ねてきた成果の発表として、6年生が、「仕丁目」と「屋台」を演奏します。「仕丁」とは、神様に仕える人をさし、普段落ち着いている仕丁も、お祭りのときなどは、目が回るほど忙しかった様子をあらわした曲といわれています。また、「屋台」は打ち出しから始まる、祭りの時など町内を巡行するときに用いられる一番ポピュラーな曲ですが、今回は「仕丁目」をつなげて演奏します。

にぎやかなお祭りの雰囲気をイメージしながら、楽しんで演奏します。

十代田区立九段小学校 九段Planets

時間 10:00~10:50

内容ビッグ・バンド演奏

九段小学校は、緑豊かな環境のもとに育まれた歴史と伝統のある学校です。昨年9月に完成した、木のぬくもりのある新しい校舎で、毎日の学校生活をこれまで以上に伸びやかに過ごしています。また、大妻女子大学の先生方や学生の皆様には、理科の学習をはじめ、ふれあい体験学習・お月見会・地域の花植え・校外体育などで、日頃よりご指導・お世話をいただいております。厚く御礼申し上げます。

「九段 Planets」は、本校の特色ある教育活動として、4・5・6 年生の希望者が毎朝音楽室に集い、音楽で一日のスタートを切っています。年々人気が高まり、本年度は 58 名が「メンバー みんなでつくろう Planets」のもと、教え合い・学び合って活動してきました。九段小といえば「Planets」と云われるほど、九段小の顔として、千代田区内はもとより、全都から耳目を集めるバンドに大きく成長しています。学校行事や集会をはじめ、これまでに「東京都管楽器演奏会」「千代田シーズン・コンサート」「千代田区 子どものための文化祭」「千代田区 敬老会」などでも演奏を披露してきました。また、東京都の代表として「全国小学校管楽器合奏フェスティバル・東日本大会」にも出演させていただきました。

6年生にとって特に慌ただしい日々となる3学期も、Planetsのメンバーは休むことなく揃って活動し、最後の最後までバンドをリードしてきてくれました。本日はその6年生との最後の演奏になります。ビッグバンド・スタイルのサウンドで、ミュージカル、スタンダード、ジャズのレパートリーを中心にスウィングします。ご声援をよろしくお願いいたします。

大妻中学高等学校

コーラス部(高校)

時間 11:10~11:30

内容 コーラス

ごきげんよう。大妻高等学校コーラス部です。

昨年に引き続き、「さくらフェスティバル」に出演する機会を頂きまして、有難うございます。 私たちは、文化祭や校内での公演を中心に冬にはいきいきプラザでのクリスマスコンサートも行っております。

部員は少ないのですが、週3日、楽しく練習に励んでいます

本日は私たちが選曲した演目ですがよく耳にする曲もあると思います。

どうぞご一緒にお歌いください。

皆様にとって素敵な時間となれば幸いです。

大妻中学高等学校

日本舞踊部

時間 11:30~11:50

内容 日本舞踊

ごきげんよう。大妻中高日本舞踊部です。昨年同様、今年もまた大妻さくらフェスティバルに参加させていただくことになり、部員一同大変光栄に思っております。私たちは初心者から経験者を含め、西川流の師範、西川祐子先生のご指導のもと、週一回活動しております。大妻中高の秋の文化祭の他、春には中高校舎でのひなまつりイベント、そして大妻女子大学でのさくらフェスティバルを発表の場として、日々練習に励んでおります。

本日は、さくらフェスティバルの名にふさわしいあたたかい春の陽気のような音楽と、 部員の優美な踊りをぜひご覧ください。

大妻中学高等学校

バトントワリング部

時間 14:30~14:50

内容 バトントワリング演技

ごきげんよう。大妻中学高等学校バトントワリング部です。今年もさくらフェスティバルに出演することができ、大変嬉しく光栄に思っております。私たちは、質の高いボディーワークと正確なバトン技術の向上を目指し、日々練習に励んでおります。12月に行われたバトントワーリング全国大会では、高校生は5年連続の金賞、中学生は銀賞をいただきました。

本日は、高校生による演技(2 作品)と中学生による演技(1 作品)を披露させていただきます。1 作品目は、高校 1・2 年生による「Toontown」です。これは中学バトン部に入部して初めて演技披露した思い出の作品です。2 作品目は中学 3 年生による「ティンカー・ベル」(全国大会銀賞受賞作品)、3 作品目は高校生による「祷歌」(全国大会金賞受賞作品)をアレンジして踊らせていただきます。

皆様にお楽しみいただけますよう、精一杯踊ります。どうぞお楽しみください。また、 手拍子や拍手で応援していただけると嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。

法政大学・大妻女子大学

時間 11:50~12:10

内容 競技ダンス

私たち舞踏研究部は、法政大学、武蔵野大学と提携して日々楽しく活動をしています。 競技ダンスとは、社交ダンスを競技化したスポーツです。競技ダンスの中にもスタンダー ドとラテンがあり、スタンダードには、優雅さを表したワルツ、軽快で素早いクイックス テップ、力強い踊りのタンゴ、緩やかで流れるような動きが特徴のスローフォックストロッ トの4種があり、ラテンの中にも男女の愛を表現するルンバ、メリハリがあり素早く動く ことが要求されるチャチャチャ、独特なリズムに合わせて弾むような特徴のサンバ、闘牛

十をイメージした力強く勇ましい動きが特徴 のパソドブレの4種があります。

また、一年を诵して様々な大会が開催されて おり、団体優勝するなど良い成績を残していま す。優雅で情熱的な踊りを是非ご覧ください。



大妻女子大学

オールチアリーディング・カンパニーLYNX 内容 チアリーディング演技

時間 13:30~13:50

大妻女子大学オールチアリーディングカンパニー LYNX です。

私たちは4年生・3年生・2年生・1年生、29人で大会をメインに日々練習に励んでい ます。皆さんはチアリーディングというスポーツはどのようなスポーツかご存知ですか? チアリーディングのチアには応援という意味があります。アメフトを代表に様々なスポー ツの応援をするために、高い位置でお客様と一緒にそのスポーツを応援するものです。そ して観てくださるお客様に元気・勇気・笑顔をお届けします。演技の中では、「網体操」を 難しくしたものをやる "スタンツ" というものがあります。そして、体と声で表現する "モー ション"というものと、ダンスをやります。

さくらフェスティバルには毎年参加をさせていただいてい ます。皆さんにチアリーディングというスポーツを是非観て 実感していただきたいです。今日は新体制になって初めての 演技となります。この新体制で大妻さくらフェスティバルを 盛り上げられるよう頑張ります!



駐日英国大使館太鼓会

どんBRI

時間 13:00~13:20

内容 和太鼓演奏

駐日英国大使館どん BRI(どんぶり)は 1994 年より大使館職員を中心に活動しておりま す。大使館内でのイベントに加え、滝廉太郎祭り、日比谷公園大盆踊り大会、老人ホーム での夏祭りやオーストラリア大使館でのイベントで太鼓をたたいております。短い時間で すが、太鼓の楽しさを知っていただくため、できる限り皆様に太鼓をたたいていただくよ う心がけております。毎年お声がけいただいております大妻さくらフェスティバルでも皆 様に太鼓に触れていただく時間を設けておりますので、是非太鼓をたたいてみてください!

二松学舎大学

アカペラサークル Voice of Nation 内容 アカペラ

時間 13:50~14:10

こんにちは! 私たちは二松学舎大学アカペラサークル Voice of Nation です。ハモネ プでもおなじみ、声で曲を創りだす『アカペラ|を楽しむサークルです。 声を全員で繋ぐハー モニー、歌をお楽しみください。今回出演させていただくのは「天樂」と「ルルリラ」です。「天 樂」は今年 1 年目の実力派バンドです。まさに天の音楽! 彼女たちの歌声は正確でとて も力強い! 勇気と感動をみなさまにお届けします。「ルルリラ」は通称「ギャルバン」と 呼ばれる女性だけで構成されたバンドです。妖艶な歌声と女性らしい美しいコーラス、そ してリズムを刻むボイスパーカッションでみなさまの心にアカペラを響かせます。

また、私たちは二松学舎大学の文化祭などに出演しているほか、自分たちでライブを運

営させていただいておりま すでご興味をもっていただ いたらぜひお越しください。 その他の情報は、Twitter「@ VoN nishol で配信してお ります。それでは、私たち がお届けするアカペラをぜ ひお楽しみください。



大妻女子大学 OG

Mauhana Hula Studio 内容 フラダンス

時間 14:10~14:30

「大妻さくらフェスティバル」へ 参加させていただくのは2度日に なります。ありがとうございます。

今回は Mauhana Hula Studio と Hula Hālau Honuaiakea の 2 つのスタジオ合同で参加させてい ただくことにいたしました。

世田谷区で活動する仲良しのグ ループです。

仲良く!楽しく!そしてフラに は真摯に向き合っています。

フラの楽しさを知っていただけた らと、ボランティア活動にも積極的 に参加させていただいています。



「大妻さくらフェスティバル 2019」でも、皆さまに楽しんでいただけましたら幸いです。 どうぞよろしくお願いいたします。

大妻さくらフェスティバル俳句大賞

大妻さくらフェスティバルのイベントの一つとして、第6回俳句大賞を実施いたしました。今年度は「春祭」「海」をテーマに、全国各地の幅広い年齢層の皆様から、1,217句の作品が寄せられました。たくさんのご応募ありがとうございました。厳正な審査の結果、入賞した作品を発表します。

đ.	The P			I			
理事長・学長賞							
テーマ 「春祭」							
小学生以下	の部	中学・高橋	交生の部	_	般の部		
東京都墨田区「西戸(悠悟(九歳)	下交寺を上島中土荃祭	東京都千代田区 田室 志織 〈十五歳〉 テ	へいのうえまどろむ猫の目春祭 海」	東京都世田谷区野上卓〈六十八歳〉			
	小学生以	下の部	一般	の部			
	愛知県名古屋市 水野 結雅 〈十一歳〉	休みとる父の明るき春の海	広島県広島市 黒飛 義竹 〈七十四歳〉	凪の瀬戸ミカンの花の霞む島			

小学生以下の部

高校生の部

般の部

式三番武骨や村の春祭

東京都杉並区

志昴

岡崎

〈六十九歳〉

佐賀県唐津市 古賀 由美子

(六十三歳)

般の部

春の波昨日ピッコロ今日はオー

ボエ

東京都福生市

原茂 敬浩

〈七十一歳〉

波の花老爺のごとき岩飾る

奈良県奈良市

嶋田

眞

〈七十一歳〉

占部 耕三

埼玉県所沢市

〈七十二歳〉

春祭り飾り終えたる児の寝息

春祭少し背伸びの帯締めて

折り紙で作った小さな雛祭

東京都千代田区 井澤 美織

〈十五歳〉

潮風の涼しき路面電車かな

東京都千代田区

吉川

かれん

〈十五歳〉

海を見に行く凩と共に行く

京都府舞鶴市

小見

伸雄

〈四十九歳〉

にぎやかな祭りはじまり山笑ふ

東京都千代田区 齊藤

〈十五歳

美都

雛壇の人形なでる子供たち

東京都千代田区 浅田

〈十五歳

だるまふでそっとしんちょう春祭り

東京都墨田区 佐藤

龍之介〈九歳〉

ママと行く大だいこの音春祭

海飛

東京都墨田区 武田

〈九歳〉

小学生以下の部

赤信号十回足ぶみ春祭

東京都墨田区 吉井

凌生

〈九歳〉

「海」 マ

中学・高校生の部

沖縄の冬晴の中波を聴く

東京都小金井市 野村 茉央

(十七歳)

灯台と二人っきりで過ごす秋

静岡県静岡市 丸山 . 夏奈 〈十四歳〉

星光る夜空と同じ夏の海

東京都墨田区 福元 咲菜

〈九歳〉

さむいのにカモメとんでる冬の海

東京都墨田区 藤森 ちか 〈九歳〉

きらきらとまばゆい光春の海

東京都千代田区 越前 美月 (十一歳)

57

大妻女子大学 オリジナル 宝来屋 紅目ねりきり



紅白ねりきり(紅白セット) ¥480円

大妻サポート購買部では、大妻さくらフェスティバルの開催を祝し、地元九段で和菓子の老舗= 宝来屋(明治元年創業)とコラボした『紅白ねりきり』を当日限定で販売いたします。 ご来場の際はお立寄りください。

この他にも大妻オリジナルの商品を店頭に用意しております。

大妻サポート購買部 千代田店

場所:大妻女子大学 千代田キャンパス 地下 1 階



「大妻さくらフェスティバル 2019」の開催にあたり、次の学生・生徒の皆さんが協力してくだ さいました。この場を借りてお礼申し上げます。

「大妻さくらフェスティバル 2019」実行委員会

大事か	マー	ト学
八女又	」ノ	ノナ

大妻高等学校 家政学部食物学科 1年 鈴木沙也果 2年 高畠 玲奈 1年 大倉 茜 2年 田村 美結 1年 小川 大妻多摩高等学校 歩 2年李 若穎 1年 笠松 紗希 文学部日本文学科 1年 関 ひかり 大妻嵐山高等学校 4年 岸 絵理奈 2年 内田 果恋 文学部英文学科 1年 岩渕 安純 文学部コミュニケーション文化学科 2年 立石 美桜 社会情報学部社会情報学科

2年 小栁 佑香 2年 近藤 実穂 2年 神川 愛美 2年 利根 愛佳 2年 池田 朱里 2年 神林 舞香 1年 藤田明日香 1年 渡邉 舞 1年 田□ 琴菜

比較文化学部比較文化学科 短期大学部家政科家政専攻 2年 新開 はな

千代田のさくらまつり

「大妻さくらフェスティバル 2019」実行委員会

委員長:井上美沙子(大妻女子大学地域連携推進センター所長) 委 員:成島由美、佐々木裕子、今村勉、桝渕富士子、小川雅之、

相浦綾子、鈴木由美子

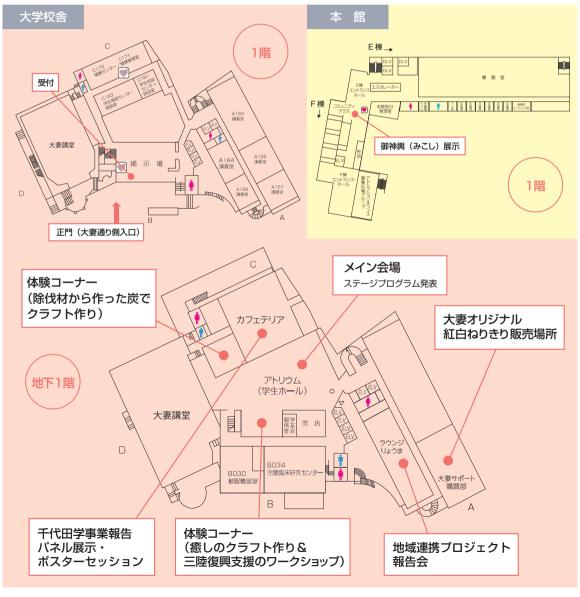
〒102-8357 東京都千代田区三番町 12番地 大妻女子大学内

TEL: 03-5275-6877 FAX: 03-5275-6800 E-mail: chiiki@ml.otsuma.ac.jp



千代田キャンパス







大妻高等学校 2年 高畠 玲奈



大妻嵐山高等学校 2年 内田 果恋



大妻多摩高等学校 2年 李 若穎



大妻高等学校 2年 田村 美結